

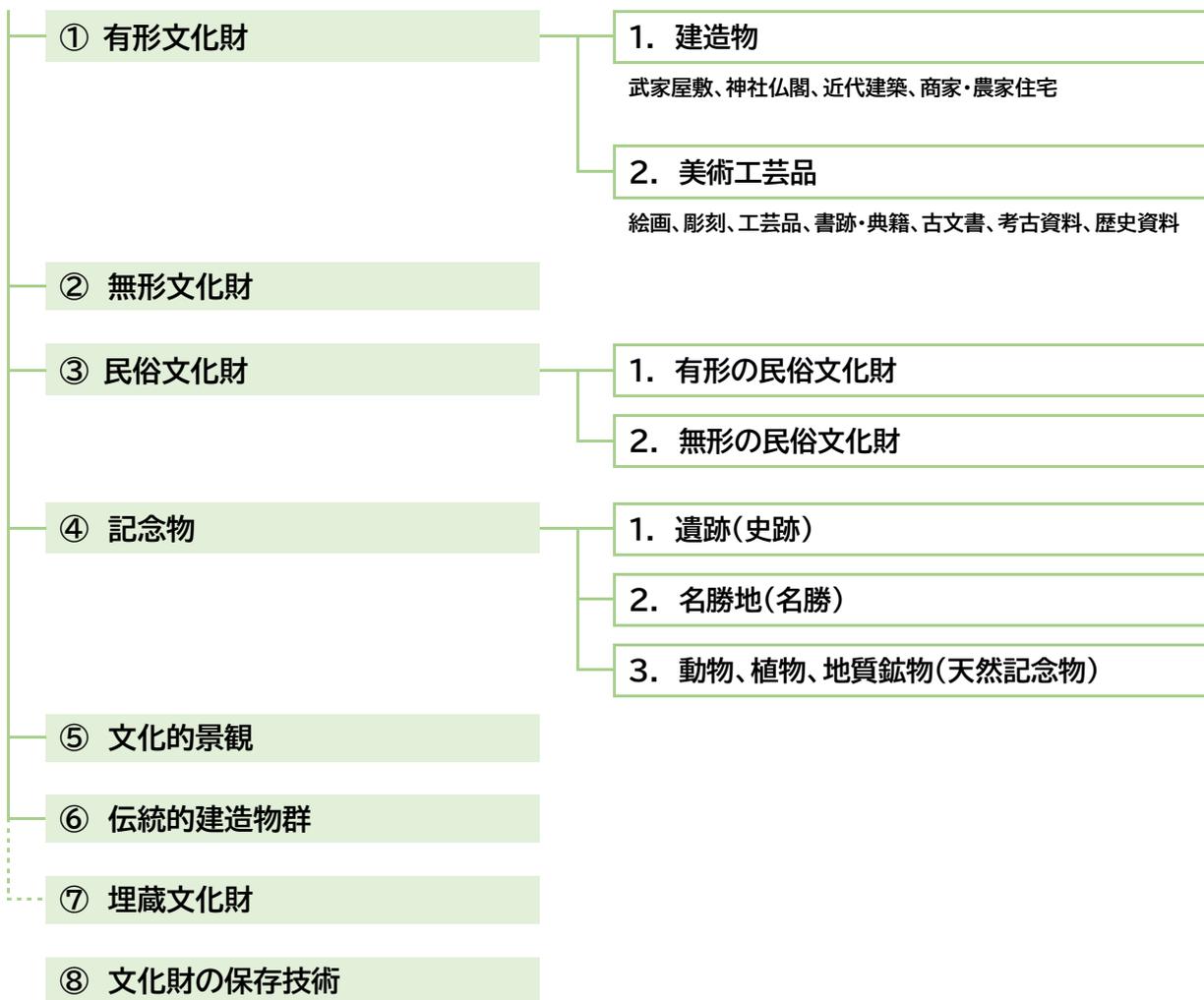
# 第3章 佐倉市の文化財の概要・特徴と現状

## 第1節 佐倉市の文化財の概要と特徴

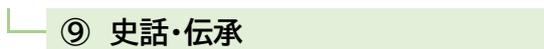
佐倉市では、これまでの文化財調査において、指定・未指定、または法令等の類型に属さないものも含めた数多くの文化財が把握されています。本節では、これまでの文化財調査によって把握された本市の文化財の概要と特徴を整理します。

文化財保護法における定義を踏まえ、本計画における文化財の類型は下図の通りです。

[文化財保護法を踏まえた類型]



[その他の文化財]



## (1) 佐倉市の文化財の概要

### ① 指定等文化財

佐倉市では、令和5年(2023)4月現在で計111件の指定等文化財があり、そのうち、国による指定・選定が4件、県による指定・選定が19件、市による指定・選定が72件となっています。また、文化財保護法における国の文化財登録原簿への登録件数が9件、記録作成等の措置を講ずべき無形の民俗文化財(以下、国選択という)が1件あります。さらに本市では、文化財の価値を再認識し、積極的に活用しながら保存していくことを目的とした登録制度を設けており、有形文化財が6件登録されています。

なお、本市では「文化的景観」、「伝統的建造物群」、「文化財の保存技術」に関する選定はありません。

[本市の指定等文化財の件数]

類型		国指定・選定	国登録	国選択	県指定・選定	県登録	市指定・選定	市登録	計	
有形文化財	建造物	1	9	—	4	0	7	6	27	
	美術 工芸 品	絵画	0	0	—	0	0	7	—	7
		彫刻	0	0	—	0	0	6	—	6
		工芸品	0	0	—	5	0	19	—	24
		書跡・典籍	0	0	—	0	0	1	—	1
		古文書	0	0	—	0	0	0	—	0
		考古資料	0	0	—	0	0	1	—	1
		歴史資料	0	0	—	1	0	6	—	7
無形文化財		0	0	0	1	0	0	—	1	
民俗文化財	有形の民俗文化財	0	0	—	1	0	2	—	3	
	無形の民俗文化財	0	0	1	1	0	5	—	7	
記念物	遺跡(史跡)	2	0	—	5	0	11	—	18	
	名勝地(名勝)	1	0	—	0	0	1	—	2	
	動物、植物、地質鉱物 (天然記念物)	0	0	—	1	0	6	—	7	
文化的景観		0	—	—	—	—	—	—	0	
伝統的建造物群		0	—	—	—	—	—	—	0	
文化財の保存技術		0	—	—	0	—	0	—	0	
計		4	9	1	19	0	72	6	111	

0:該当なし、—:制度なし

## ② 未指定文化財

佐倉市では、令和5年（2023）4月現在で計14,613件の未指定文化財が確認されています。

[本市の未指定文化財の件数]

類型		計		
有形文化財	建造物	1,507	11,818	
	美術 工芸 品	絵画		1,732
		彫刻		20
		工芸品		154
		書跡・典籍		60
		古文書		1
		考古資料		7,399
		歴史資料		945
無形文化財		0		
民俗文化財	有形の民俗文化財	271	428	
	無形の民俗文化財	157		
記念物	遺跡(史跡)	1,008	1,015	
	名勝地(名勝)	2		
	動物、植物、地質鉱物(天然記念物)	5		
文化的景観		7		
伝統的建造物群		1		
埋蔵文化財		938		
文化財の保存技術		0		
その他(史話・伝承)		406		
計		14,613		

## (2) 文化財の類型ごとの概要と特徴

本計画における文化財の類型に基づき、未指定文化財を含めた類型ごとの概要と特徴を整理します。

### ① 有形文化財

#### 1. 建造物

##### 【武家屋敷】

佐倉市には、県指定有形文化財となっている「佐藤家住宅」や「旧河原家住宅」をはじめ、市指定有形文化財となっている「旧但馬家住宅」、国登録有形文化財となっている「旧武居家住宅」などの武家屋敷が存在します。

その他、本市では未指定の武家屋敷が数棟確認されています。

特に、「旧河原家住宅」、「旧但馬家住宅」、「旧武居家住宅」の3棟は合わせて『佐倉武家屋敷』として公開されており、城下町佐倉の面影を現在に残しています。



旧武居家住宅



旧但馬家住宅

[武家屋敷の主な文化財]

区分		名称	所在地	指定・登録年月日
国	登録	旧武居家住宅	宮小路町	H28. 8. 1
県	指定	佐藤家住宅	中尾余町	S59. 2. 24
		旧河原家住宅	宮小路町	S60. 3. 8
市	指定	旧但馬家住宅	宮小路町	H1. 3. 31

##### 【神社仏閣】

佐倉市には、県指定有形文化財となっている「松林寺本堂」や、市指定有形文化財となっている「将門山大明神鳥居」をはじめとした仏教建築・神社建築が存在します。

また、未指定の神社仏閣では、各地区を代表する神社・寺院の建造物である「角来八幡神社本殿」や「飯野山東徳寺観音堂」などがあります。

本市では佐倉城の築城に伴い、城下町を中心に多くの寺院が開かれたほか、本佐倉城や、佐倉の鎮守として信仰された神社の建造物が現在も残っています。



松林寺本堂



密蔵院薬師堂

[神社仏閣の主な文化財]

区分		名称	所在地	指定年月日
県	指定	松林寺本堂	弥勒町	S57. 4. 6
市	指定	将門山大明神鳥居	大佐倉	S52. 7. 13
		鷲神社鳥居	先崎	S53. 7. 26
		鷲神社本殿 附 宮殿 棟札 御正躰箱	先崎	S53. 7. 26
		密蔵院薬師堂	寺崎	S60. 9. 26
		鏑木麻賀多神社本殿 附 棟札 2 枚	鏑木町	H30. 8. 16
		大佐倉八幡神社本殿	大佐倉	H30. 8. 16
-	未指定	角来八幡神社本殿	角来	-
		飯野山東徳寺観音堂	飯野	-

【近代建築】

佐倉市には、国指定重要文化財となっている「旧堀田家住宅」や、国登録有形文化財となっている「千葉県立佐倉高等学校記念館」、「旧佐倉市立志津小学校青菅分校校舎」をはじめ、県指定文化財となっている「旧川崎銀行佐倉支店」などの近代建築が存在します。



旧堀田家住宅



千葉県立佐倉高等学校記念館

また、未指定の近代建築では、現在は佐倉市青少年体育館として利用されている「旧佐倉高校武道館」などがあります。

城下町の趣を残すまちなかの風景に、明治期・大正期の洋風建築や戦前の意匠が加わり、趣ある景観が形成されています。

[近代建築の主な文化財]

区分		名称	所在地	指定・登録年月日
国	指定	旧堀田家住宅 玄関棟・居間棟・座敷棟・書斎棟・湯殿・門番所・土蔵 附 棟札 1 枚	鏑木町	H18. 7. 5
国	登録	千葉県立佐倉高等学校記念館	鍋山町	H17. 7. 12
		旧佐倉市立志津小学校青菅分校校舎	青菅	R3. 2. 4
県	指定	旧川崎銀行佐倉支店 附 棟札（大正七年在銘） 1 枚	新町	H3. 2. 15
-	未指定	旧佐倉高校武道館	江原新田	-

## 【商家・農家住宅】

佐倉市には、旧城下の町人地であった新町通りを中心に、国登録有形文化財となっている「旧平井家住宅」や「旧今井家住宅」をはじめとした商家住宅が多く存在します。また、市登録有形文化財となっている「齋藤家住宅」をはじめとした農家住宅は、近代から現代にかけての農家の変化を示しています。



旧平井家住宅



旧今井家住宅

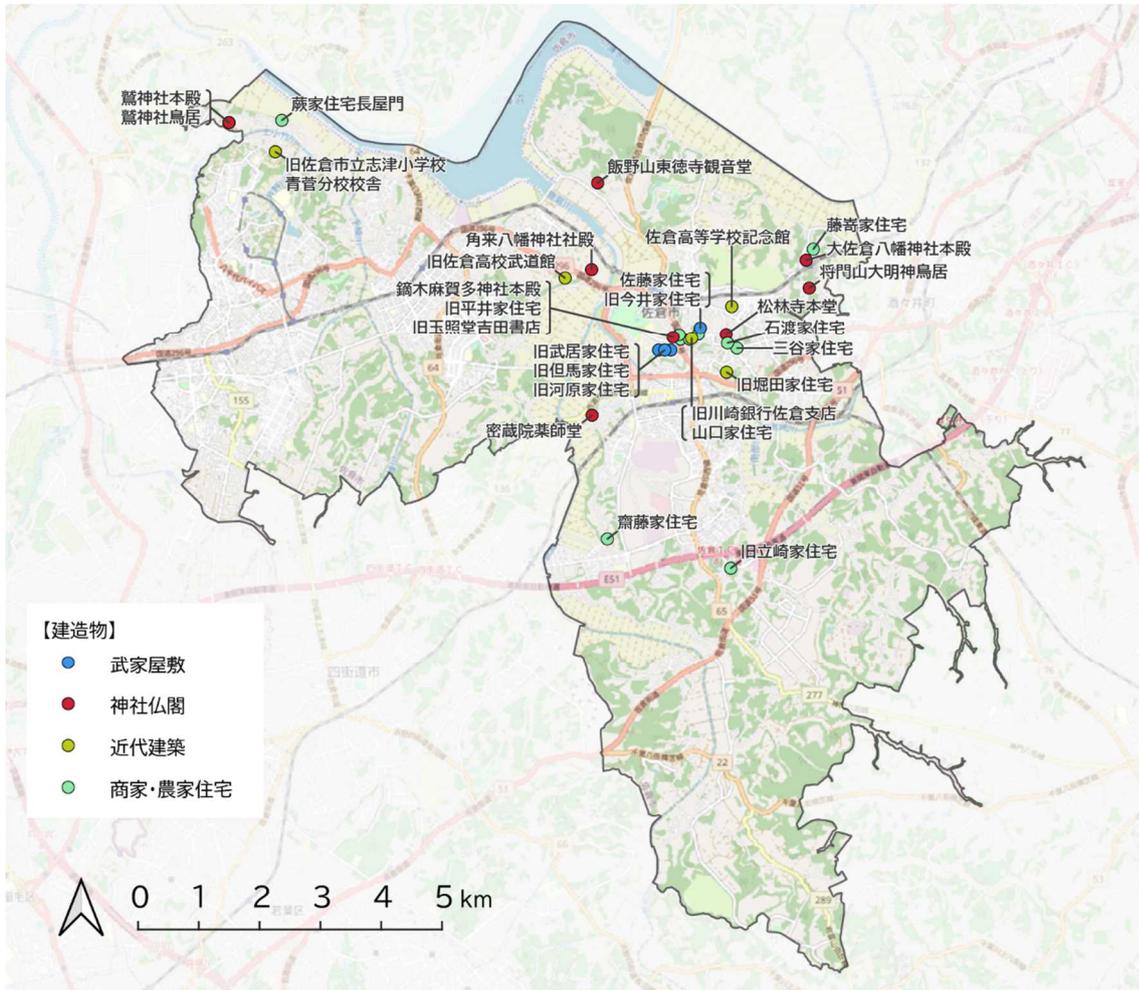
未指定の商家住宅では「旧玉照堂吉田書店」なども新町通りを中心に立地しているほか、農家住宅では「旧立崎家住宅」などがあります。

本市の商家・農家住宅は、主に明治期に建てられた主屋を中心に、増築された土蔵や座敷棟なども残り、当時の人々の営みを今に伝えています。

### [商家・農家住宅の主な文化財]

区分		名称	所在地	指定・登録年月日
国	登録	旧平井家住宅 店舗兼主屋・座敷棟・脇蔵	新町	H28. 8. 1
		旧今井家住宅 主屋・座敷棟・土蔵	新町	R1. 12. 5
市	登録	山口家住宅 袖蔵および店蔵	新町	H12. 2. 16
		三谷家住宅 主屋・袖蔵および座敷屋	弥勒町	H13. 5. 16
		石渡家住宅 主屋および蔵	弥勒町	H13. 5. 16
		藤寄家住宅 主屋・洋館・文庫蔵・味噌蔵・表門・米蔵・馬小屋	大佐倉	H17. 7. 1
		蕨家住宅長屋門	先崎	H17. 7. 1
		齋藤家住宅 主屋・蔵	太田	H21. 2. 23
-	未指定	旧玉照堂吉田書店	新町	-
		旧立崎家住宅	木野子	-

[主な建造物の分布]



資料：OpenStreetMap

## 2. 美術工芸品

### 【絵画】

佐倉市の絵画は、洋画家・浅井忠の作品である「花園口上陸図」や、神社奉納品の「麻賀多神社板絵馬「藤戸の渡し」」、「熊野神社板絵馬「龍図」」などの7件が市指定有形文化財となっています。

また、未指定の絵画では、「佐倉御城実測図」など個人蔵あるいは美術館蔵となっている作品や、神社仏閣に関わる絵馬などが数多く存在します。



佐倉城大絵図

### [絵画の主な文化財]

区分	名称	所在地	指定年月日	
市	指定	花園口上陸図	新町	S44. 3. 12
		麻賀多神社板絵馬「藤戸の渡し」	鎗木町	S52. 4. 13
		熊野神社板絵馬「龍図」	太田	S52. 4. 13
		佐倉城大絵図	新町	S52. 7. 13
		紙本著色釈迦涅槃図	新町	S58. 6. 30
		絹本著色釈迦涅槃図	臼井台	S63. 3. 15
		佐倉牧関係絵図	新町	H25. 2. 22
-	未指定	伝千葉勝胤肖像画	大佐倉	-
		佐倉御城実測図	新町	-

### 【彫刻】

佐倉市の彫刻は、寺院に収められた仏像類の6件が市指定有形文化財となっています。

また、未指定の彫刻においても「八木東福院薬師如来坐像」をはじめとした、古代・中世に制作が遡る作品が確認されています。



木造大日如来坐像



木造金剛力士立像

### [彫刻の主な文化財]

区分	名称	所在地	指定年月日	
市	指定	木造薬師如来立像	畔田	S39. 3. 18
		木造阿弥陀如来坐像	臼井台	S44. 3. 12
		木造大日如来坐像	鎗木町	S53. 4. 18
		木造金剛力士立像	岩名	S53. 7. 26
		木造薬師如来坐像及び両脇侍立像	鎗木町	S53. 10. 18
		金銅地藏菩薩坐像	新町	H20. 9. 1
-	未指定	木造薬師如来立像（密蔵院）	寺崎	-
		八木東福院薬師如来坐像	直弥	-

## 【工芸品】

佐倉市の工芸品は、「紫裾濃胴丸」、「鳳凰蒔絵鞍」、「天球儀」「牡丹蓮華唐草模様七条袷裟横被付」「亀甲梅椿模様七条袷裟横被付」の5点が県指定有形文化財となっているほか、刀や神輿といった武具・祭礼用具等19件が市指定有形文化財となっています。

また、未指定の工芸品では、麻賀多神社や宝金剛寺に奉納されている武具・祭礼用具などが確認されています。江戸幕府の有力な譜代大名としての堀田家の功績や、高度な工芸技術を有した近世の武家文化を今に伝えています。

また、本市は、香取秀真や津田信夫といった近代以降の日本工芸史を代表する作家の出身地でもあり、佐倉市立美術館では、この二人の代表的な作品を所蔵しています。



紫裾濃胴丸



鳳凰蒔絵鞍



牡丹蓮華唐草模様七条袷裟横被付

### [工芸品の主な文化財]

区分		名称	所在地	指定年月日
県	指定	紫裾濃胴丸 附 木箱1合 由緒書1通 折紙8通	鎭木町	S29. 3. 31 (再) S31. 7. 13 (追・変) R3. 3. 19
		鳳凰蒔絵鞍	新町	S41. 5. 20
		天球儀	新町	S41. 5. 20
		牡丹蓮華唐草模様七条袷裟横被付	直弥	R5. 3. 10
		亀甲梅椿模様七条袷裟横被付	直弥	R5. 3. 10
市	指定	ピストル	新町	S39. 3. 18
		麻賀多神社神輿	鎭木町	S39. 3. 18
		妙見神社神輿	六崎	S39. 3. 18
		刀 銘細川忠義(寺崎)	寺崎	S41. 9. 26
		刀 銘国友忠恕	新町	S44. 3. 12
		佐藤尚中陣羽織	裏新町	S48. 4. 14
		銅大国主命立像	鎭木町	S48. 6. 20
		銅武内宿禰立像	新町	S49. 4. 27
		銅十一面観音菩薩立像	新町	S49. 4. 27
		銅麻賀多神社印	鎭木町	S49. 6. 04
		銅釣燈籠	鎭木町	S49. 6. 04
		刀 銘細川忠義(西志津)	西志津	S53. 7. 26
		槍 銘細川忠義	鎭木町	S54. 10. 17
		刀 銘細川忠正	西志津	S55. 7. 22
		簾阿弥陀来迎図	新町	S58. 6. 30
		旧佐倉町の祭礼用具	新町、弥勒町	S59. 11. 26
		梵鐘(元禄七年在銘)	岩富	S61. 3. 31
		金剛五鈷杵	井野	H7. 8. 16
		岩富城主北条氏勝寄進資料 三鱗蒔絵四重椀	直弥	H22. 10. 01 (変) R5. 03. 16

-	未指定	紺糸素懸威桶側胴二枚胴具足	鍋木町	-
		北条氏勝位牌・覚朝位牌	直弥	-
		鴛鴦文銅花瓶	新町	-
		隠霧澤毛	新町	-
		本町神明神社神輿	本町	-
		青い目の人形（ナンシー・メリー）	鍋木町	-
		銅製宝冠	直弥	-

### 【書跡・典籍、古文書、歴史資料】

佐倉市の書跡・典籍、古文書、歴史資料は、藩校に所蔵されていた古典籍群である「鹿山文庫関係資料」が県指定有形文化財となっているほか、「公立米戸小学校版木」や「将門町地租改正地引図」などが市指定有形文化財となっています。

また、未指定の書跡・典籍や歴史資料では、佐倉藩主を長く務めた堀田家の文書・記録や佐倉順天堂における西洋医療に関する資料などが数多く存在しています。未指定の古文書では、佐倉順天堂の初代堂主である佐藤泰然に関わる文献などが確認されています。



鹿山文庫関係資料



古今佐倉真佐子

### [書跡・典籍、古文書、歴史資料の主な文化財]

区分		名称	所在地	指定年月日
県	指定	鹿山文庫関係資料	鍋山町	S29. 3. 31 (再) S31. 7. 13 (追) H5. 2. 26
市	指定	古今佐倉真佐子 附 絵図一葉	新町	S59. 1. 18
		公立米戸小学校版木	米戸	S47. 2. 9
		佐倉城城門写真原板	宮小路町、 新町	S49. 7. 19
		松林寺古絵図	弥勒町	S52. 1. 19
		将門町地租改正地引図	海隣寺町	S53. 4. 18
		伝堀田正盛坐像	新町	S54. 6. 29
		小幡家旧蔵佐倉城関係資料	新町	H9. 3. 26
-	未指定	下総佐倉堀田家文書	鍋木町	-
		佐倉順天堂佐藤家資料	城内町、本町	-
		天正十九年内田村検地帳	新町	-
		天正十九年寒風村検地帳	新町	-
		出陣次第	城内町	-

**【考古資料】**

佐倉市の考古資料は、「ナウマン象歯牙化石」が市指定有形文化財となっています。

また、未指定の考古資料では、井野長割遺跡や吉見台遺跡、宮内井戸作遺跡などにおいて、縄文時代の土器や土偶、土製品といった数多くの原始・古代の遺物が確認されています。さらに、本佐倉城跡や佐倉城跡からは、城や城下町の人々の暮らしに関わる遺物が確認されています。



ナウマン象歯牙化石



常総型石枕

[考古資料の主な文化財]

区分		名称	出土地	指定年月日
市	指定	ナウマン象歯牙化石	飯野	S48. 4. 14
	未指定	井野長割遺跡出土資料	井野	-
		吉見台遺跡出土資料	吉見台	-
		宮内井戸作遺跡出土資料	宮内	-
		臼井南式土器	臼井	-
		常総型石枕	先崎	-
		遠隔地との交流を示す石器石材、土偶、土器	井野ほか	-
		墨書土器「寺」「神屋」など（高岡大山遺跡）	高岡	-
		搬入土器	高岡ほか	-
		役人が身に着けた帯金具	高岡ほか	-
		「寺」の刻印土器（内田端山越窯、内田端山越遺跡）	内田	-
		仏堂の発見や僧侶の名前が書かれた墨書土器（内田端山越遺跡）	内田	-
		鉄製の焼印（坂戸清水作遺跡）	坂戸	-
		墨書土器「坂津寺」（坂戸広遺跡）	坂戸	-
		墨書土器「高罌寺」（長熊廃寺）	長熊	-
		墨書土器「白井寺」（六拾部遺跡）	大作	-
		墨書土器「佛」（南広遺跡）	宮本	-
		瓦塔（六拾部遺跡）	大作	-
		仏面墨書土器（八木山ノ田遺跡）	八木	-
		灰釉陶器蔵骨器（高崎新山遺跡）	高崎	-
		内田端山越窯の須恵器	内田	-
		高岡大山遺跡出土銅鏡	高岡	-
		高岡新山遺跡出土蔵骨器	高岡	-
		本佐倉城跡東光寺ビヨウ 出土遺物	大佐倉	-
	佐倉城跡大手門周辺 出土遺物	城内町	-	

[主な美術工芸品の分布]



- |   |   |   |
|---|---|---|
| <p>① 紫裾濃羽丸<br/>麻賀多神社神輿<br/>銅麻賀多神社印<br/>銅釣燈籠<br/>紺糸素懸威桶側胴二枚胴具足<br/>麻賀多神社板絵馬「藤戸の渡し」<br/>青い目の人形<br/>刀 銘国友忠恕<br/>ヒストル</p> | <p>② 花園口上陸図<br/>佐倉御城表測図<br/>旧佐倉町の祭礼用具<br/>鶯鶯文銅花瓶<br/>隠霧澤毛<br/>天正十九年内田村検地帳<br/>天正十九年寒風村検地帳</p> | <p>③ 佐倉城大絵図<br/>鳳凰蒔絵鞍<br/>天球儀<br/>銅武内宿禰立像<br/>銅十一面観音菩薩立像<br/>伝堀田正盛坐像<br/>佐倉牧関係絵図<br/>小幡家旧蔵佐倉城関係資料</p> |
|---|---|---|

資料：OpenStreetMap

## ② 無形文化財

佐倉市の無形文化財は、戦国時代初期から伝承されている「武術 立身流」が県指定無形文化財となっています。

なお、未指定の無形文化財は確認されていません。

[無形文化財の主な文化財]

区分		名称	所在地	指定年月日
県	指定	武術 立身流	岩富町	S53. 2. 28



武術 立身流

## ③ 民俗文化財

### 1. 有形の民俗文化財

佐倉市の有形民俗文化財は、古来の五穀豊穰や悪魔払いに関わる祭礼で使用されていた「甲賀神社の鹿面」が県指定民俗文化財となっているほか、「先崎地蔵尊」や「和田地区民俗資料」が市指定となっています。

また、未指定の有形の民俗文化財では、各町の御神酒所があり、江戸時代後期から現在に至るまでの祭礼の中心であるとともに、本市の独自の祭礼文化を伝えています。



和田地区民俗資料

[有形の民俗文化財の主な文化財]

区分		名称	所在地	指定年月日
県	指定	甲賀神社の鹿面	羽鳥	S29. 12. 21
市	指定	先崎地蔵尊	先崎	S49. 3. 26
		和田地区民俗資料	八木	H4. 7. 1
-	未指定	表町の御神酒所	表町	-
		田町の御神酒所	田町	-
		宮小路町第一の御神酒所	宮小路町	-
		並木町の御神酒所	並木町	-
		袋町の御神酒所	袋町	-
		野狐台町の御神酒所	野狐台町	-
		鐺木町の御神酒所	鐺木町	-
		栄町の御神酒所	栄町	-
		本町の御神酒所	本町	-
		弥富地区民俗資料	弥富	-

## 2. 無形の民俗文化財

佐倉市の無形の民俗文化財は、浄土宗の西福寺で伝承されている「坂戸の念仏」が県指定民俗文化財となっているほか、「佐倉囃子」や「下勝田の獅子舞」などが市指定民俗文化財となっています。

また、未指定の無形の民俗文化財では、「城麻賀多神社の神輿の巡幸及び奉納相撲」、「先崎鷺神社の神輿渡御」などの祭礼行事や、「西志津囃子」などの芸術文化が挙げられます。

後述する佐倉市民文化資産に代表されるように、これらの祭礼文化・伝統芸能などに関わる数多くの民俗文化財が、所有者や地域の方々によって継承されており、市民が誇りを持つ身近な財産となっています。



坂戸の念仏

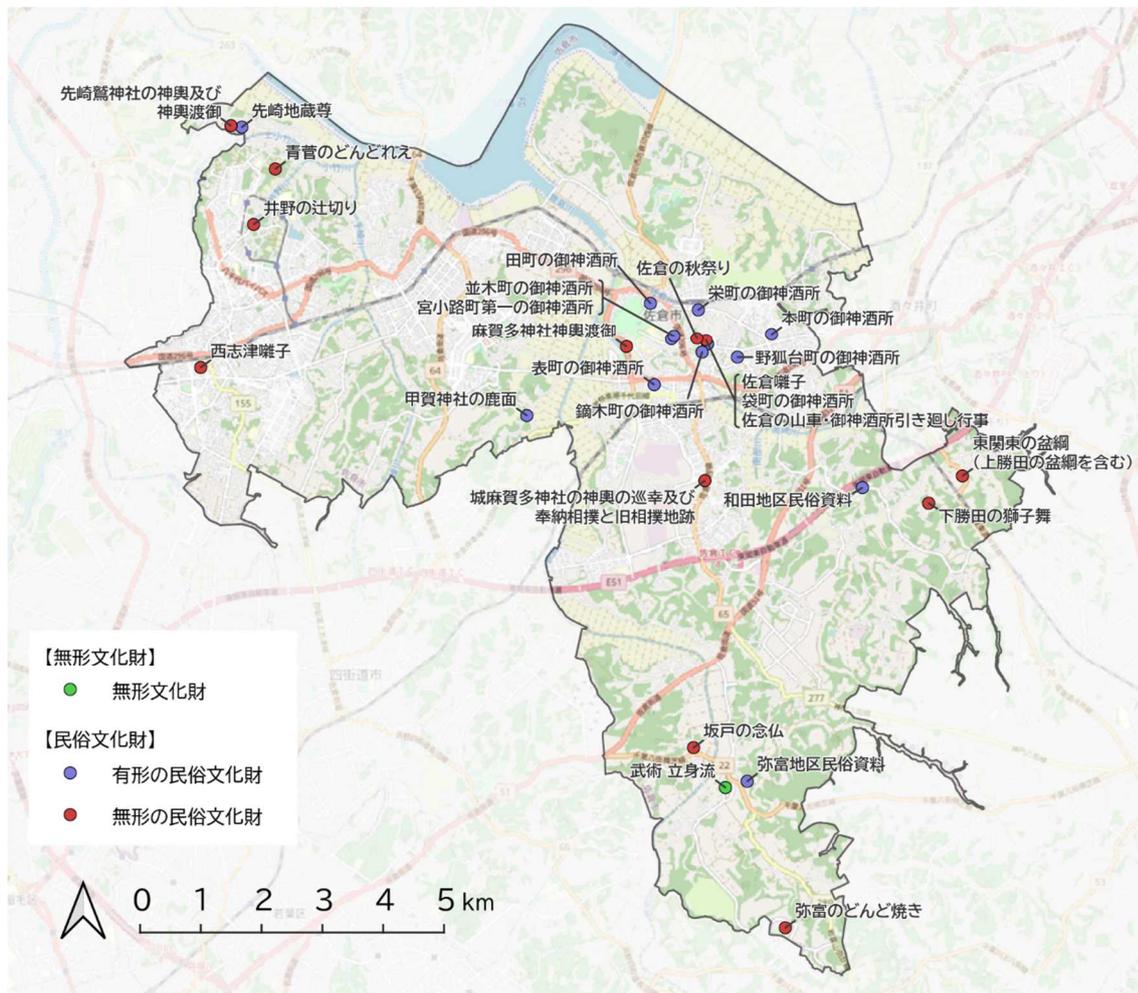


麻賀多神社神輿渡御

### [無形の民俗文化財の主な文化財]

区分		名称	所在地	指定・選択年月日
国	選択	東関東の盆綱	千葉県・茨城県	H27. 3. 2
県	指定	坂戸の念仏	坂戸	S55. 2. 22
市	指定	佐倉囃子	新町	S46. 10. 20
		下勝田の獅子舞	下勝田	S49. 4. 27
		上勝田の盆綱	上勝田	S50. 1. 13
		青菅のどんどれえ	青菅	H19. 6. 29
		麻賀多神社神輿渡御	鎭木町	H27. 10. 21
-	未指定	城麻賀多神社の神輿の巡幸及び奉納相撲と旧相撲地跡	六崎	-
		先崎鷺神社の神輿及び神輿渡御	先崎	-
		西志津囃子	西志津	-
		佐倉の山車・御神酒所引き廻し行事	新町他	-
		弥富のどんど焼き	弥富	-
		井野の辻切り	井野	-

[無形文化財と主な民俗文化財の分布]



資料：OpenStreetMap

#### ④ 記念物

##### 1. 遺跡（史跡）

佐倉市の遺跡（史跡）は、「本佐倉城跡」や「井野長割遺跡」が国指定記念物となっているほか、「長熊廃寺跡」や「旧佐倉順天堂」などが県指定記念物となっています。

また、未指定の遺跡（史跡）では、これまでの把握調査により、各時代の集落跡や古墳、城跡、偉人・先人に関わる記念碑などが数多く確認されており、佐倉市が印旛沼を中心とした原始古代の人々の生活拠点であったことや、中世武家の興亡の舞台であったことを示しています。



本佐倉城跡



井野長割遺跡

##### [遺跡（史跡）の主な文化財]

区分		名称	所在地	指定年月日
国	指定	本佐倉城跡	大佐倉	H10. 9. 11
		井野長割遺跡	井野	H17. 3. 2
県	指定	長熊廃寺跡	長熊	S42. 3. 7 (追) S56. 3. 13
		旧佐倉順天堂	本町	S50. 3. 28
		堀田正俊、正睦、正倫墓	新町	S53. 2. 28
		飯郷作遺跡	下志津他	S54. 3. 2
		上座貝塚	上座	S57. 4. 6
市	指定	佐倉城跡	城内町官有無番地	S37. 3. 28
		上人塚古墳	小篠塚他	S41. 9. 26
		香取秀真おいたちの地	鎬木町	S49. 3. 26
		山崎ひょうたん塚古墳	下根他	S50. 4. 23
		勝胤寺千葉家供養塔	大佐倉	S50. 9. 17
		海隣寺千葉家供養塔	海隣寺町	S50. 9. 17
		土井利勝父母夫人供養塔	弥勒町	S52. 1. 19
		修静居跡	宮小路町	S54. 6. 29
		臼井城跡	臼井字城之内他	H6. 2. 16
		青菅の大塚・小塚	宮ノ台他	H22. 10. 1
		臼井田宿内砦跡	臼井田字宿内	R4. 8. 18
-	未指定	時崎城跡	六崎	-
		下総まわらし宿善養院境内と阿弥陀堂周辺	馬渡	-
		時崎の弁天さまの池	六崎	-
		上志津の神社と社叢（八幡神社・天御中主神社）	上志津	-
		瑞湖山円応寺 臼井八景発祥の地	臼井	-
		小竹城跡と小竹五郎の墓及びその周辺の里山風景	小竹	-
		間野台貝塚	間野台	-
		神楽場遺跡	下志津	-

-	未指定	吉見台遺跡	吉見台	-
		遠部台遺跡	臼井田	
		江原台遺跡	江原台	
		岩名天神前遺跡	岩名	
		臼井南遺跡群	臼井	
		六崎大崎台遺跡	大崎台	-
		八木山ノ田遺跡	八木	-
		六拾部遺跡	大作	-
		鳥取駅家の推定地	神門・木野子	-
		星神社（臼井妙見社）	臼井	-
		志津城跡	志津	
		阿多津の碑	臼井田	-
		太田図書の子墓	臼井	-
		謙信一夜城の碑	王子台	-
		岩富城跡	岩富	-
		佐倉道（成田街道）道標	井野	-
		加賀清水	志津	-

## 2. 名勝地（名勝）

佐倉市の名勝地（名勝）は、最後の佐倉藩主であった堀田正倫が、明治23年（1890）に旧堀田邸の庭園として設けた「旧堀田正倫庭園」が国指定記念物となっているほか、巖島神社が祀られている「勝間田の池」が市指定記念物となっています。

また、未指定の名勝地（名勝）では、古来より人々の生活に大きな恩恵を与えている「印旛沼」や「臼井八景」が佐倉市の豊かな自然を代表するシンボルとなっています。



旧堀田正倫庭園



印旛沼

### [名勝地（名勝）の主な文化財]

区分		名称	所在地	指定年月日
国	指定	旧堀田正倫庭園	鎚木町	H27.3.10
市	指定	勝間田の池	下勝田	S51.5.20
-	未指定	印旛沼	-	-
		臼井八景	臼井	-

### 3. 動物、植物、地質鉱物（天然記念物）

佐倉市の動物、植物、地質鉱物(天然記念物)は、「佐倉城の夫婦モッコク」が県指定記念物となっているほか、「鷲神社のケヤキ」や「称念寺のムクロジ」などの6件の樹木が市指定記念物となっています。

また、未指定の動物、植物、地質鉱物（天然記念物）では、佐倉の豊かな生態系や信仰に関わる植物や自然環境が確認されています。



佐倉城の夫婦モッコク

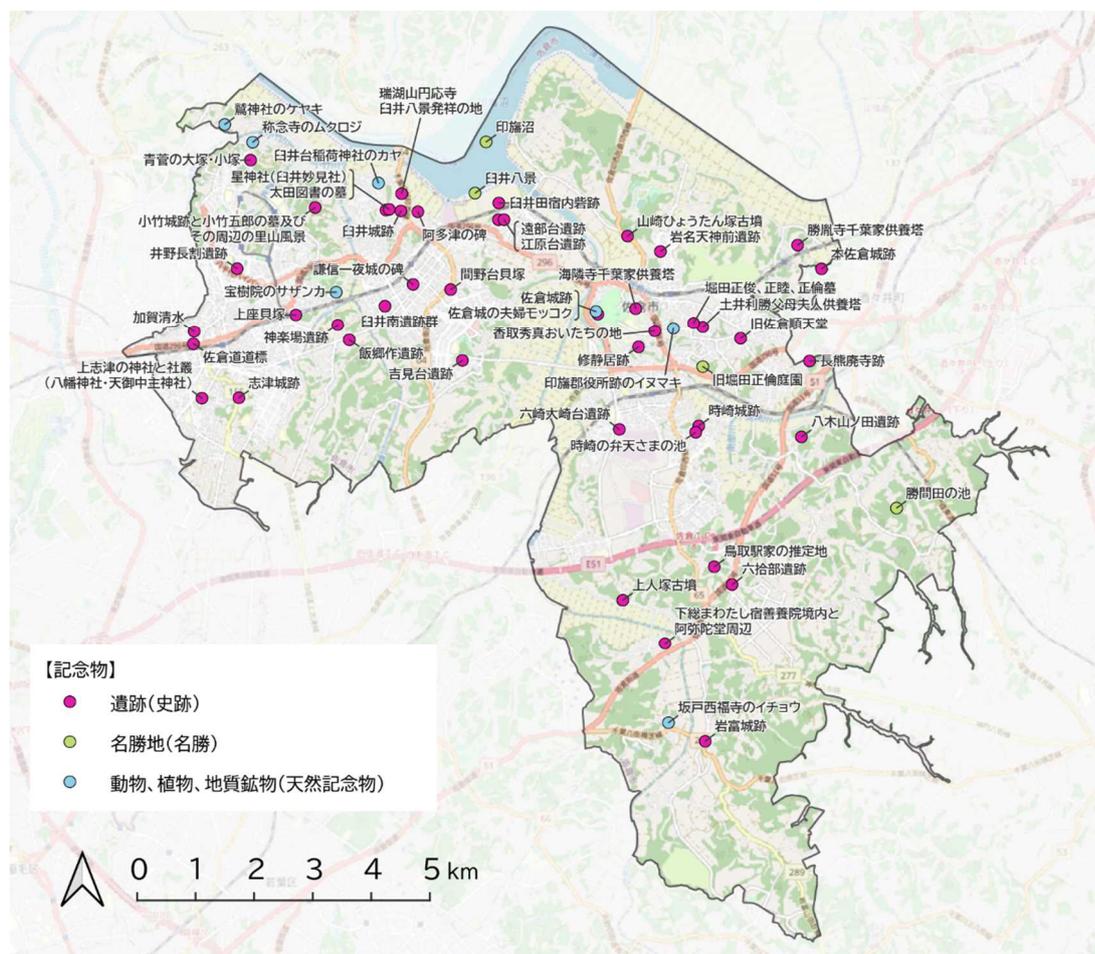


宝樹院のサザンカ

[動物、植物、地質鉱物（天然記念物）の主な文化財]

区分		名称	所在地	指定年月日
県	指定	佐倉城の夫婦モッコク	城内町官有無番地	S27. 11. 3
市	指定	鷲神社のケヤキ	先崎	S37. 12. 22
		称念寺のムクロジ	青菅	S39. 3. 18
		印旛郡役所跡のイヌマキ	新町	S47. 11. 6
		臼井台稻荷神社のカヤ	八幡台	S48. 2. 7
		坂戸西福寺のイチョウ	坂戸	S49. 10. 15
		宝樹院のサザンカ	上座	R2. 3. 23

[主な記念物の分布]



資料：  
OpenStreetMap

## ⑤ 文化的景観

佐倉市において、重要文化的景観の選定はありませんが、佐倉市景観計画では、佐倉城跡や白井城跡などの城跡と、佐倉城跡周辺・旧街道筋白井・馬渡の宿場の歴史的なまち並み、指定・登録文化財等の歴史・文化的な資産が市の「歴史・文化的景観」として整理されています。



武家屋敷通り



旧白井宿周辺

[文化的景観の主な文化財]

区分	名称	所在地	指定・登録年月日	
-	未指定	武家屋敷通り	宮小路町	-
	未指定	旧白井宿周辺	白井	-
	未指定	旧馬渡宿周辺	馬渡	-

## ⑥ 伝統的建造物群

佐倉市において、重要伝統的建造物群保存地区の選定はありませんが、市内の歴史的建造物に関する悉皆調査では、江戸時代に町人地として形成された、成田街道沿いの田町・新町・弥勒町・本町にかけて、近世以来の建造物がまとまって確認されています。

文化的景観とともに形成されるまち並みが、江戸の趣きを今に伝え、佐倉市が“歴史のまち”として認識されるゆえんとなっています。



新町

[伝統的建造物群の主な文化財]

区分	名称	所在地	指定・登録年月日
-	未指定	田町・新町・弥勒町・本町	-

## ⑦ 埋蔵文化財

佐倉市では、これまでの発掘調査や分布調査により、数多くの埋蔵文化財が確認されています。令和5年（2023）4月現在、市内の埋蔵文化財包蔵地として登録されている遺跡数は938件に上り、その時代は旧石器時代から近代までと幅広いものとなっています。

[埋蔵文化財の主な文化財]

区分	名称	所在地	指定・登録年月日	
-	未指定	曲輪ノ内貝塚	江原新田	-
		寺崎向原遺跡	寺崎	-
		上座矢橋遺跡	上座	-
		角来埜谷1号墳	角来	-
		曲輪ノ内遺跡	江原	-
		高岡新山遺跡	高岡	-
		高岡大山遺跡	高岡	-
		坂戸清水作遺跡	坂戸	-
		坂戸広遺跡	坂戸	-
		南広遺跡	宮本	-
		内田端山越遺跡	内田	-
		栗野ノ遺跡	宮本	-
		立山遺跡	直弥	-

## ⑧ 文化財の保存技術

佐倉市において、文化財の保存に必要な材料や用具の生産制作、修復の技術等に関しては、現在確認されていません。

## ⑨ その他（史話・伝承）

文化財保護法では対象となっていませんが、佐倉市では、各地区で語り継がれている史話・伝承が多く確認されています。根郷地区の「たんたん山」や、和田地区の「親はうま酒、子は清水」をはじめ、清水の湧く佐倉の豊かな自然や、そこに根付いた人々の生活の様子、また、歴史に由来する伝説などが史話・伝承のストーリーを通して今に伝えられています。

[史話・伝承の主な文化財]

区分	名称	所在地	指定・登録年月日	
-	未指定	たんたん山	-	-
		親はうま酒、子は清水	-	-
		データラポーの足跡	-	-
		流れる仏	-	-

### (3) 佐倉市市民文化資産

「佐倉市市民文化資産」とは、これまで所有者や地域の方々によって守られてきた身近な文化資産を、市民が誇りを持つことのできる共通の財産として、所有者の努力や市民の協力によって保全と活用を促進し、確実に将来に引き継ぐための選定制度です。

#### ① 生活文化資産

「生活文化資産」では、おおむね 30 年以上継承されてきており、衣食住、生業、信仰、年中行事等に関する風俗習慣、民俗芸能及びこれらに用いられる衣服、器具、家屋その他の物件で、地域住民の生活の推移を理解するため欠くことのできないもの、かつ地域住民にとって愛着のあるものが選定されています。



表町の御神酒所



城麻賀多神社の神輿の巡幸及び奉納相撲と旧相撲地跡

[生活文化資産の選定文化財一覧]

名称	所在地	種別・指定等	選定年月日
表町の御神酒所	表町	有形民俗（未指定）	H17. 9. 20
城麻賀多神社の神輿の巡幸及び奉納相撲と旧相撲地跡	六崎	無形民俗（未指定）	H17. 9. 20
時崎城跡	六崎	史跡（未指定）	H17. 9. 20
下総まわらし宿百観音	馬渡	有形（未指定）	H17. 9. 20
千蔵寺の千躰仏	馬渡	有形（未指定）	H17. 9. 20
下総まわらし宿善養院境内と阿弥陀堂周辺	馬渡	史跡（未指定）	H21. 6. 5
先崎鷲神社の神輿及び神輿渡御	先崎	無形民俗（未指定）	H21. 6. 5
時崎の弁天さまの池	六崎	天然記念物（未指定）	H23. 10. 17
上志津の神社と社叢（八幡神社・天御中主神社）	上志津	有形（未指定）	H24. 12. 13
田町の御神酒所	田町	有形民俗（未指定）	H28. 3. 7
瑞湖山円応寺 臼井八景発祥の地	臼井	史跡（未指定）	H29. 6. 1
宮小路町第一の御神酒所	宮小路町	有形民俗（未指定）	H29. 9. 27
並木町の御神酒所	並木町	有形民俗（未指定）	H29. 9. 27
袋町の御神酒所	袋町	有形民俗（未指定）	H29. 9. 27
野狐台町の御神酒所	野狐台町	有形民俗（未指定）	H29. 9. 27
鐺木町の御神酒所	鐺木町	有形民俗（未指定）	H29. 9. 27
栄町の御神酒所	栄町	有形民俗（未指定）	H29. 9. 27
本町の御神酒所	本町	有形民俗（未指定）	H29. 9. 27

## ② 芸術文化資産

「芸術文化資産」では、おおむね 10 年以上の活動実績を有し、音楽、美術、舞踊、工芸技術その他の文化的所産で、地域住民にとって愛着のあるものが選定されています。



西志津囃子

[芸術文化資産の選定文化財一覧]

名称	所在地	種別・指定等	選定年月日
西志津囃子	西志津	無形民俗（未指定）	H23. 3. 1

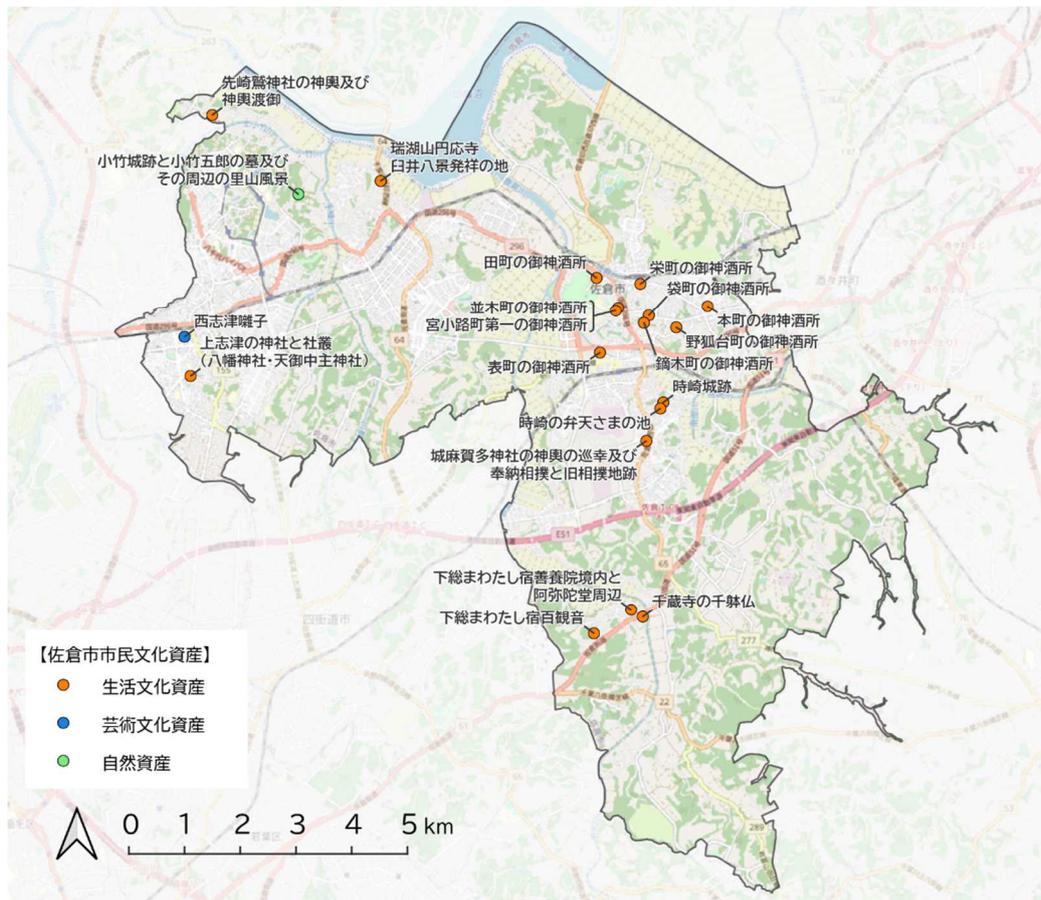
## ③ 自然資産

「自然資産」では、おおむね 30 年以上経過しており、森林、里山、谷津田、河川、湖沼等の周囲の環境と一体をなし、環境保全上有益なもの、または市民にとって鑑賞価値の高いもの、並びに動物（生息地、繁殖地及び渡来地を含む）、植物（自生地を含む）、及び地質鉱物（特異な自然の現象の生じている土地を含む）で、地域住民にとって愛着のあるものが選定されています。

[自然資産の選定文化財一覧]

名称	所在地	種別・指定等	選定年月日
小竹城跡と小竹五郎の墓及びその周辺の里山風景	小竹	史跡（未指定）	H26.12.5

[佐倉市市民文化資産の分布]



資料：  
OpenStreetMap

## (4) 日本遺産

「日本遺産」とは、地域の歴史的魅力や特色を通じて、日本の文化・伝統を語る「ストーリー」を文化庁が認定する制度です。歴史や風土に根差した「ストーリー」を重視し、魅力ある文化財群を、地域が主体となって総合的に整備・活用し、国内外に戦略的に情報を発信することが特徴です。

佐倉市を含む、「北総四都市江戸紀行・江戸を感じる北総の町並み 一佐倉・成田・佐原・銚子：百万都市江戸を支えた江戸近郊の四つの代表的町並み群一」は、平成 28 年度（2016）の日本遺産に認定されています。この「北総四都市江戸紀行」は、佐倉市、成田市、香取市、銚子市の 4 市にまたがる「シリアル型（ネットワーク型）」の認定として、歴史や風土に根差した「ストーリー」に基づく市内の文化財が「構成文化財」として位置付けられています。

[北総四都市江戸紀行のストーリー]

北総地域は、百万都市江戸に隣接し、関東平野と豊かな漁場の太平洋を背景に、利根川東遷により発達した水運と江戸に続く街道を利用して江戸に東国の物産を供給し、江戸のくらしや経済を支えた。こうした中、江戸文化を取り入れることにより、城下町の佐倉、成田山の門前町成田、利根水運の河岸、香取神宮の参道の起点の佐原、漁港・港町、そして磯巡りの観光客で賑わった銚子という4つの特色ある都市が発展した。

これら四都市では、江戸庶民も訪れた4種の町並みや風景が残り、今も東京近郊にありながら江戸情緒を体感することができる。

成田空港からも近いこれらの都市は、世界から一番近い「江戸」といえる。

[北総四都市江戸紀行の構成文化財のうち佐倉市に関するもの]

名称		種別・指定等	認定年月日
佐倉城跡		史跡（市指定）	H28. 4. 25
佐倉の武家屋敷群	①旧河原家住宅	有形（県指定）	
	②旧但馬家住宅	有形（市指定）	
	③旧武居家住宅	有形（国登録）	
城下町佐倉の町並み	①旧平井家住宅	有形（国登録）	
	②佐藤家住宅	有形（県指定）	
	③山口家住宅	有形（市登録）	
	④石渡家住宅	有形（市登録）	
	⑤三谷家住宅	有形（市登録）	
佐倉道（成田街道）の道標		有形（未指定）	
城下町佐倉の祭礼	①麻賀多神社神輿	有形（市指定）	
	②麻賀多神社神輿渡御	無形民俗（市指定）	
	③旧佐倉町の祭礼用具	有形（市指定）	
	④佐倉囃子	無形民俗（市指定）	
旧佐倉順天堂		史跡（県指定）	
佐倉順天堂医史学資料		有形（未指定）	
鹿山文庫関係資料		有形（県指定）	
旧堀田家住宅		有形（国指定）	
旧堀田正倫庭園		名勝（国指定）	
堀田正俊・正睦・正倫墓		史跡（県指定）	
土井利勝父母夫人供養塔		史跡（市指定）	
加賀清水		有形（未指定）	H30. 5. 24
古今佐倉真佐子および総州佐倉御城府内之図		有形（市指定）	
武術 立身流		無形（県指定）	
紫裾濃胴丸		有形（県指定）	

## 第2節 文化財の把握調査の概要

### (1) 本市における文化財の総体的な把握調査の概要

#### ① 市史編さん事業のはじまりと地域の文化財と公民館・市民

本市の市史編さん事業は、公民館事業<sup>1</sup>として始まったことが知られています<sup>1</sup>。佐倉市合併前の旧佐倉町時代、佐倉町公民館の助成を受けて佐倉地方郷土文化同好会が『佐倉地方文化』を刊行し、昭和29年(1954)9月、郷土誌編さんの声をあげ、公民館事業として編さん委員を委嘱し、昭和32年(1957)から同37年(1962)にかけて謄写版の資料集である『佐倉市誌』が刊行されました。この資料集では、現在も広く知られている佐倉市内の文化財の基本的な情報がまとめられ、その後の把握調査や指定もこれが起点となっています。

昭和38年(1963)の佐倉市史編さん委員会条例の制定に伴い、市長部局の総務課が主管し新たな計画が進められており、地元研究家たちの活動とそれをした公民館が最初期を築いたと指摘されています。昭和41年(1966)11月には佐倉市文化財保護協会が発足し、佐倉の文化財に対する関心と理解を深め、郷土愛の精神を育むことを目的に、以後昭和54年(1979)まで『佐倉地方文化財』が刊行されました。そして、『佐倉市史』は昭和46年(1971)に古代から中世、近世の佐倉の歩みをまとめた巻1、昭和48年(1973)に近世の佐倉をまとめた巻2、昭和54年(1979)に明治時代の佐倉の歩みをまとめた巻3が編集・刊行されていきました。

また、児童向けの副読本として昭和45年(1970)から現在まで改訂を重ねている『わたしたちの佐倉』があります。これは小学校3・4年生向けの社会科の副読本として編集され、市の様子、土地利用、暮らし、佐倉城や順天堂をはじめとする歴史、古くからの祭礼、生活文化を紹介しています。

昭和40年代から50年代にかけて、志津・白井地区は市外からの転入者が多く、そうした「新住民」の増加を意識し、「佐倉」を知ってもらうことで佐倉への郷土愛を醸成するための事業が公民館を中心に実施されました。人口増加とそれに伴う諸課題が反映され、地域史・文化財は有効な「素材」とみなされていたのです。

昭和50年代には、各公民館の郷土史講座の受講生たちがまとめた各地区の歴史・地理を市史編さん委員や公民館職員が監修し、公民館が刊行する動きが盛んになりました。佐倉市教育委員会、千葉県では近世文書などを翻刻した資料集が刊行されています。佐倉市の指定文化財を紹介する『佐倉市の指定文化財』も昭和53年(1978)に刊行されています。

---

<sup>1</sup> 市民・公民館活動の詳細については、長谷川佳澄「佐倉における市民と文化財」宮間純一編『歴史資源としての城・城下町』岩田書院、2021年を参照。

## ② 文化財と歴史文化の総合的な把握につながる取組み

昭和 58 年（1983）からは、佐倉市史編さん室より『佐倉市史研究』が発刊され市の歴史に関する論考、新出資料の紹介がなされました。昭和 62 年（1987）には、『佐倉市史 民俗編』が刊行されています。同年には追加・変更された指定文化財を網羅しカラー写真図版を掲載した『佐倉市の指定文化財』も刊行されました。さらに、翌年には佐倉市の文化活動を紹介する冊子である『風媒花』の刊行が開始され、現在まで刊行が続いています。

文化財の総合的な把握、未指定文化財も含めた把握という視点では、平成 4 年（1992）に刊行された『佐倉細見』が特筆されます。この冊子は、佐倉市の各地域に残る文化財を指定・未指定に関わらず選出し広く佐倉市の文化財と歴史文化を紹介しています。平成 13 年（2003）までに改定を加えながら 3 版までが発行されました。

市にゆかりのある人物を紹介する取組みとしては、平成 2 年（1990）から同 10 年にかけて刊行された『佐倉市郷土の先覚者』シリーズがあります。これは、小学校の副読本として編集されたもので、児童向けに読みやすい内容となっていますが、市にゆかりのある人物を知る素材として質の高いものとなっています。また、市史とは別にわかりやすく通史を紹介するものとしては平成 10 年（1998）から同 15 年に市史編さん室から刊行された『ふるさと歴史読本』シリーズがあります。佐倉の原始古代、中世、近世、近代、自然を紹介する全 5 冊からなっています。

その後、佐倉市教育委員会は、平成 15 年（2003）4 月から佐倉の歴史、自然、文化、ゆかりの人物について学ぶ「佐倉学」を提唱し、生涯学習の基本として「子どもから高齢者まですべての市民が様々な機会に学ぶことができるもの」と位置付けています。佐倉学は、佐倉の教育について中長期に目指す方向性を記した「佐倉教育ビジョン」の重点プロジェクトの一つに位置付けられ、生涯学習の取組みとして学校だけでなく、各公民館や図書館、文化課において関連事業が現在もなされています。学校教育の現場での佐倉市の歴史文化の把握の観点では、例えば『佐倉学副読本 ふるさと佐倉の歴史』の発行があります。小学校 6 年生向けの社会科副読本で、日本史通史の中で佐倉の歴史を解説したものとなっており、平成 20 年（2008）から現在まで改訂を重ねているものです。また、平成 15 年（2003）から同 17 年（2005）には佐倉連隊として知られる陸軍歩兵第五十七連隊等に入隊した方々の戦争体験談をまとめた『佐倉連隊聞き書き集』1～3 が刊行されています。平成 20 年（2008）には、『佐倉市史』巻 4 が刊行され、巻 3 に続く通史として昭和 50 年代までの佐倉市の歩みがまとめられました。

平成 22 年度（2010）から同 29 年度（2017）には『佐倉・城下町 400 年記念事業』として、佐倉城の築城を記念して文化財を活用した地域の活性化、郷土愛の情勢を図り「歴史のまち・佐倉」のイメージを市内外に PR することを目指した長期キャンペーンが実施されました。本事業は、市の既存事業を歴史文化の土壌を醸成する共通目的のもとに再編成し、統一したイメージで PR を可能としたものであり、この事業と親和性の高い「佐倉学」など学校教育、社会教育分野を超えて普及が進んだと位置付けられます。市主催のほかに、記念事業の趣旨に賛同する民間主体の事業を協賛事業に認定し、広報等支援を行う取組みも進められました。成果としては、市民意識調査における「歴史文化資産、歴史建造物の保全と活用」<sup>2</sup> に対する満足度が、平成 22 年度（2010）から平成 29 年度（2017）の 8 年間で 38% から 61% に上昇し、一定の理解が進んだと言えます。

<sup>2</sup> この事業の取組み・成果については、呉屋希美「城下町になろう」佐倉市教育委員会編『風媒花』第 31 号、2018 年を参照。

この間の平成 25 年度（2013）には『佐倉市史』考古編（本文編・資料編）が刊行されています。印旛沼と下総台地という自然環境に支えられた旧石器時代から中近世までの佐倉市域の歴史と人々の暮らしを考古学の観点からまとめたものとなっています。

そして、平成 28 年度（2016）には市内の指定文化財等を解説する小冊子『佐倉市文化財リブレットめぐる たずねる しる 佐倉』（令和 2 年度改訂）が発行されています。また同年、内田理彦氏によって佐倉の人物・地域を紹介し『佐倉市史』を読み込むための資料がまとめられた『昔日佐倉拾遺録』上・下巻が発行され、市内図書館等に配架されました。平成 29 年度（2017）には佐倉・城下町 400 年記念事業総合展示『城と町と人と』が佐倉市立美術館で実施され、佐倉城や城下町に関連する美術工芸品の展示、佐倉城の CG による再現映像の上映が行われました。加えて、展示に合わせて、シンポジウム『城・城下町の歴史遺産一守り、活かし、伝える一』も開催され、城と城下町に関する文化財（歴史遺産）がどのように把握調査・保存・活用されてきたのかが論じられ、この成果は令和 3 年（2021）に刊行<sup>3</sup>されています。

---

<sup>3</sup> 宮間純一編『歴史資源としての城・城下町』岩田書院、2021 年

## (2) 文化財の類型ごとの調査の概要

佐倉市における各類型の文化財の調査の進捗は、下記の表の通りです。

[類型ごとの把握調査の一覧]

把握調査の種類		原始	古代	中世	近世	近現代	
有形文化財	建造物	武家屋敷	—	—	—	◎	—
		神社仏閣	—	—	—	△	○
		近代建築	—	—	—	—	○
		商家・農家住宅	—	—	—	○	○
	美術工芸品	絵画	—	—	△	△	◎
		彫刻	—	?	△	△	◎
		工芸品	—	—	△	△	◎
		書跡・典籍、古文書、歴史資料	—	—	△	○	△
		考古資料	○	○	○	○	△
	無形文化財		—	—	—	○	—
民俗文化財	有形の民俗文化財	—	—	—	○	△	
	無形の民俗文化財	—	—	○	○	△	
記念物	遺跡(史跡)	貝塚・集落跡	○	○	△	△	—
		古墳・塚・供養塔・墓所	—	○	△	△	△
		古社寺	—	△	△	—	—
		城館跡	—	—	○	○	—
	名勝地(名勝)	—	—	—	○	△	
	動物、植物、地質鉱物(天然記念物)	—	—	△	△	△	
文化的景観		—	—	—	○	○	
伝統的建造物群		—	—	—	○	○	
文化財の保存技術		—	—	—	—	—	
埋蔵文化財		○	○	○	○	○	
その他(史話・伝承)		—	○	○	○	○	

- 「◎」 把握が進み、調査も十分にできている。
- 「○」 把握が進み、ある程度調査もできている。
- 「△」 把握は進んだが、調査が不十分または更新が必要。
- 「—」 把握・調査の結果、該当する文化財が存在しない。
- 「？」 把握も調査も十分にできていない。

次に、文化財の調査について、類型ごとにこれまでの概要を述べます。

## ① 有形文化財

### 1. 建造物

#### 【武家屋敷】

武家屋敷は過去に把握調査が進み、その後も数度、市による現存状況の調査更新が行われています。本市の歴史的建造物の把握と保存整備は、昭和 56 年（1981）に佐倉市と財団法人観光資源保護財団（現・公益財団法人日本ナショナルトラスト）によって行われた佐倉の武家屋敷に関する調査に端を発します。この成果は翌年発刊の報告書『佐倉の武家屋敷』としてまとめられています。昭和 63 年（1988）には、旧河原家住宅と旧但馬家住宅の建物および周囲の景観の保存整備の計画と、それらを今後市民生活に活用するための計画の作成を目的とする調査が行われています。旧武居家住宅は、平成 7 年（1995）1 月に解体前の緊急調査が行われ、その成果が翌年発刊の『旧武居家住宅復元工事報告書』にまとめられています。武家屋敷の復元整備にともなう調査は、現況の部材の痕跡調査などとともに文献資料を参照し進められました。これらに記載されている間取り、部屋の規模などを分析することにより、現況の部材だけではわからなかった情報を補うことが可能となりました。

#### 【神社仏閣】

神社仏閣は、市による把握調査が行われていますが、近世の仏堂に関する調査が不十分となっています。

市内の神社仏閣の把握については、平成 7 年（1995）から同 8 年（1996）にかけての調査の中で行われました。この調査では、各地区の神社仏閣を対象に、名称、縁起・由来・指定文化財・明治以前の未指定の文化財の有無を聞き取り調査と写真撮影が行われました。

さらに、市内の江戸時代の神社本殿については文化財審議員の濱島正士氏による調査<sup>4</sup>が行われ、その成果がまとめられています。この調査によって、江戸時代の建立とみられる遺例について、各部の構造形式や細部の手法・意匠における時代的な変遷が把握されました。

#### 【近代建築】

近代建築は、県・市による把握が進められ、市による調査も進んでいます。

本市の近代建築のまとまった把握調査は、平成 5 年（1993）の『千葉県近代建造物実態報告調査報告書』が挙げられ、旧堀田家住宅や旧川崎銀行佐倉支店などがリストアップされました。

平成 7 年（1995）には、旧堀田家住宅の敷地測量調査が行われました。旧堀田家住宅の当初の姿については、平成 9 年（1997）～同 11 年（1999）の保存整備工事の際に検討され、「下総佐倉堀田家文書」に所収されている普請関係文書からうかがい知ることができます。この詳細は『旧堀田邸保存整備工事報告書』に報告されています。

旧川崎銀行佐倉支店は、平成 28 年度（2016）から同 29 年度（2017）にかけて耐震補強工事が実施され、『旧川崎銀行佐倉支店耐震補強工事報告書』に工事内容とともに建物の変遷などの情報が整理されています。その後、平成 30 年（2018）には、『知られざるドイツ建築の継承者―矢部又吉と佐倉の近代建築』が佐倉市立美術館で開催され、現存する近代建築が改めて把握・紹介されました。

<sup>4</sup> 濱島正士「佐倉市内の神社建築にみる形式手法の変遷」佐倉市編『佐倉市史研究』第 18 号、2005 年

## 【商家・農家住宅】

商家・農家住宅を含む歴史的建造物は、市により旧城下町の中心であった新町地区から把握が進められ、市全域の調査が完了しています。

平成2年度（1990）のHOPE計画の策定にあたっては、新町地区の家屋分布調査が行われ、平成6年（1994）にはその変動についての現況調査が行われています。そして、調査によって把握された住宅のうち比較的建築当時の面影を多く残すものを対象に、実測調査、図面作成、写真撮影、損傷・痕跡調査、聞き取り、復元的考察を加えた歴史的建造物詳細調査報告が以降進められました。その後、範囲を佐倉地区に広げた調査が平成11年（1999）、同16年（2004）、同21年（2009）に実施されています。さらに、平成14年（2002）からは他地区の悉皆調査も開始され、平成25年（2013）に市全域の調査が完了しています。

## 2. 美術工芸品

### 【絵画】

絵画は、市による把握が進んでいますが、調査が不十分あるいは更新が必要な分野があります。

絵馬・奉納額などは、昭和30年代からの把握調査によりある程度知られていましたが、全体的な調査としては平成8年（1996）に千葉県がまとめた『千葉県文化財実態調査報告書 絵馬・奉納額・建築彫刻』があります。また、中世から近世の神社・寺院が所蔵する絵画については、神社仏閣の項でも述べた把握調査が行われています。

また、城下町としての特徴を示す城絵図や城下町絵図については、『佐倉市史』の編さんにあたって整理されたことから、その把握がはじまったといえます。その後、平成14年（2002）の千葉県立総南博物館（現・千葉県立中央博物館大多喜分館）の展示『絵図にみる城と城下町』や千葉県教育委員会編『集落・町並—千葉県集落・町並実態調査報告書—』によって情報の更新と主要なものの調査が行われました。そして、近年では佐倉・城下町400年記念事業総合展示『城と町と人と』の実施にあたり、城下町絵図の主要なものの整理と調査が行われ、その成果は図録としてまとめられています。

近代・現代の絵画については、佐倉市立美術館が収集・整理・研究を進め、その成果は各種収蔵品展にて公開されています。また、美術館収蔵作品データベースも公開されており、ここからもそのコレクションを把握することができます。

### 【彫刻】

彫刻は、平安仏など古代のものが把握しきれておらず、中世～近世のもの調査が不十分な状況にあります。

仏像など神社・寺院が所有する彫刻については、神社仏閣の項で述べた把握調査が行われました。そうしたなかで、平成25年（2013）に千葉市美術館で行われた『仏像半島—房総の美しき仏たち—』展では、中世をさかのぼる平安仏の存在も指摘されています。また、近年は少しずつではありますが、所有者の協力を得ながら調査が進められた寺院もあります。しかし、信仰の対象となる仏像彫刻などは、造立後に後補・改変されるものも多く、制作当初の像容の把握を難しくしています。

近代・現代の彫刻については、絵画と同じく佐倉市立美術館が収集・整理・研究を進め、データベースを公開しています。

## 【工芸品】

工芸品は、市による把握が進んでいますが、中世～近世のもの調査が不十分または更新が必要な状況です。

本市の代表的な工芸品の一つである近世の神輿や、明治初期に日本橋方面から買い取った江戸型山車・人形や各町の御神酒所などは、平成14年（2002）の旧佐倉町祭礼用具調査の後、佐倉山車人形保存会による現状の把握調査が進められました。

また、武家によって発注され神社仏閣に寄進にされた工芸品や刀剣・武具類は、佐倉・城下町400年記念事業の関連事業などで把握調査が改めて進んだ分野であるといえます。加えて密教系寺院で用いられる法具なども確認され、寺院が所有する絵画・彫刻とともに、今後さらなる調査が待たれます。

そして、佐倉は、香取秀真や津田信夫といった近代以降の日本工芸史を代表する作家の出身地でもあり、佐倉市立美術館では、この二人の代表的な作品を所蔵するとともに、関連する展示を定期的に行い情報の更新に努めています。

## 【書跡・典籍、古文書、歴史資料】

書跡・典籍、古文書、歴史資料は、全体として把握は進んでいますが、中世・近代の調査が不十分な状況にあります。

これらの文化財は、おもに佐倉市史編さん事業で把握調査が進められてきました。江戸時代の藩政資料では「下総佐倉堀田家文書」のほか、旧藩士に連なる家で継承されてきた資料群があります。「下総佐倉堀田家文書」には、近代の資料も含まれており、近年徐々に調査が進められています。また、佐倉藩校での教育や佐倉が蘭学の先進地であったことを示す藩校蔵書「鹿山文庫関係資料」や「佐倉順天堂佐藤家資料」などは、主要なものが佐倉高校地域交流施設や佐倉順天堂記念館での展示にあたって調査されています。近代の佐倉連隊関係資料は、『佐倉市史』巻4の編集・発行や国立歴史民俗博物館で行われた『佐倉連隊にみる戦争の時代』展により把握調査が進みました。中世～近世の神社・寺院資料については、絵画・彫刻・工芸品と同じく、ある程度把握調査が進んだものの、その更新や不十分な点を補う必要がある分野の一つです。

## 【考古資料】

考古資料のうち、原始～近世のものは把握が進み、ある程度調査もできていますが、近代のものについては調査が不十分または更新が必要な状況にあります。

これまでの発掘調査等で出土した考古資料は2万箱以上に上り、報告書が刊行されたものについては把握がなされています。その中から資料の状態が良いものや重要性が高いと判断されたものの一部は平成2年（1990）の展示に伴い作成された『佐倉考古展』図録や『佐倉市史』考古編などでまとめられています。なお、これまでの考古資料における指定文化財はナウマンゾウ歯牙化石のみですが、令和4年（2022）に刊行された『琵琶湖博物館研究紀要第35号 ナウマンゾウ研究百年』で研究者による全国的な集成や分析が行われた際に、市内の化石3点が取り上げられ、この分野での把握はできています。

## ② 無形文化財

無形文化財は、伝承団体自らによる把握調査が進んでいます。

「武術 立身流」は、現在も積極的な伝承活動が行われています。伝承活動のうち、その各種形をまとめた冊子『立身流之形』第一巻（初版：平成9年（1997）、改訂版：令和4年（2022））第二巻（平成30年（2018））の刊行も行われており、団体自らが伝承している文化財の把握調査に努めています。

## ③ 民俗文化財

民俗文化財は、有形・無形ともに、地区の協力を得た市による把握調査が進んでいますが、近年の現存・活動状況について調査を更新する必要があります。

本市の民俗文化財の多くは、昭和30年代から始まった市史編さん事業の中で把握され、調査・指定が進められていきました。そして、昭和62年（1987）には、『佐倉市史 民俗編』が刊行され、市内の生活文化・風習に関わる歴史文化がまとめられています。

### 1. 有形の民俗文化財

有形の民俗文化財は、昭和終わりから平成の初めにかけて和田地区・弥富地区の民俗資料の把握が地元の協力のもと進められ、地域で用いられていた民具の収集が行われました。また、佐倉地区の「佐倉の秋祭り」に関わる用具については、佐倉山車人形保存会による用具の調査や市民文化資産の選定にあわせて各町の御神酒所の情報が改めて把握されました。

### 2. 無形の民俗文化財

無形の民俗文化財は、各公民館事業での把握調査や『佐倉市史 民俗編』によって把握されています。「佐倉の秋祭り」に関わる祭礼文化については、佐倉山車人形保存会によって行事としての調査も行われ、平成26年（2014）の『佐倉の祭礼』にその成果がまとめられています。また「坂戸の念仏」では平成28年（2016）の33年に一度の「大十夜」に際し、行事の内容が改めて把握調査され、実施へとつながりました。

## ④ 記念物

### 1. 遺跡（史跡）

#### 【貝塚・集落跡】

貝塚・集落跡のうち、原始・古代のものについては把握が進み調査もある程度できていますが、中世・近世のものは調査が不十分または更新が必要な状況にあります。

市内で最初に貝塚が把握されたのは、明治26年（1893）に小発掘が行われた江原台にある曲輪ノ内貝塚です。その後明治30年代には同じく、江原台にある遠部台貝塚とともに考古学界に知られるところとなりました。大正時代には、京成本線の軌道敷設を契機に上座貝塚が、昭和10年代には間野台貝塚が発見されています。その後、昭和40年代から同50年代の土地区画整理事業等の大規模開発による発掘調査の増加により、多くの貝塚が調査されました。集落跡の調査も同じ時期に行われ、広大な調査面積により縄文時代から奈良・平安時代の集落の展開が把握できるようになりました。

そして、昭和 59 年（1984）刊行の『千葉県佐倉市埋蔵文化財分布地図―佐倉市遺跡詳細分布調査報告書―』内に、市内の貝塚及び集落跡を含む佐倉市の遺跡、指定文化財所在地地名表が記載されています。その後、開発行為が危惧される重要な貝塚及び集落跡については、令和 3 年（2021）に刊行された『千葉県内縄文時代集落・貝塚詳細分布調査報告書』に記載され、今後の遺跡保護と開発事業との調整を図るための基礎資料となっています。このように古くから把握調査が進んでおり、保存するエリアが明確になっています。

### 【古墳、塚・供養塔・墓所】

古墳、塚・供養塔・墓所のうち、古代のものについては把握が進み調査もある程度できていますが、中世～近現代のものは調査が不十分または更新が必要な状況にあります。

古墳は死者を埋葬した場所であり、主に墳丘を有しており、遺跡分布調査や平成 2 年（1990）刊行の『千葉県所在古墳群詳細分布調査報告書』で位置や規模が把握されています。市内での初めての古墳の発掘調査は、昭和 33 年（1958）に馬渡姫宮古墳で実施され、昭和 40 年代には下勝田西横穴墓群が発掘調査されています。その後、開発により消滅の危機にあった古墳 3 基の発掘調査や測量調査の報告が昭和 51 年（1976）に佐倉市教育委員会から刊行された『文化財時報』で報告されています。また、近年は古墳形状の詳細な把握を目的として、前方後円墳を中心に地形測量や内容確認発掘調査を実施し、把握を進めています。埋葬場所や信仰の対象として、古墳と同様に比較的大型の墳丘がある中世及び近世塚についても遺跡分布図や『佐倉市史 考古編』での市内の塚 63 カ所が把握されており、青菅の大塚・小塚では地形測量や発掘調査が行われ、「坂戸の念仏」の舞台となる坂戸念仏塚の規模についても把握しています。しかし、市内に多数存在する小規模な塚の遺構すべての把握はできていません。

中世及び近世の寺院を中心に、千葉氏やその一族、歴代佐倉藩主、藩士などの供養塔や墓所が菩提寺に残されており、千葉氏石塔群や土井利勝父母夫人供養塔、堀田家墓所などは石材分析や銘文などにより年代や被葬者が把握できています。また、平成 26 年（2014）刊行の『佐倉市史 考古編』では中世の板碑や主な石塔類の資料集成がされ、把握が進みました。しかし、近世墓地内での藩士の墓などについては、『佐倉市誌資料』の部分的な記載にとどまっています。

### 【古社寺】

古社寺は、把握が進んでいますが、調査が不十分または更新が必要な状況にあります。

長熊廃寺は古瓦や瓦塔が採集されることで知られており、昭和 26 年（1951）の立正大学による発掘調査では、大規模な伽藍配置が想定されていました。昭和 61 年（1986）に財団法人千葉県文化財センターが再発掘調査を行い、『佐倉市長熊廃寺跡確認調査報告書』で 8 世紀後半から 9 世紀前半の瓦葺建物 1 棟の小規模な寺院と考えられるようになりました。ただ、遺構の全体像が判明しているといえず、今後の追加調査も視野に入れる必要があります。

### 【城館跡】

城館跡は、中世・近世ともに把握が進み、ある程度の調査も進んでいます。

市内の城館跡は、市内遺跡分布図や千葉県が平成 7 年（1995）に刊行した『千葉県所在中近世城館跡詳細分布調査報告書 I―旧下総地域―』で把握されています。また、昭和 63 年（1988）に佐倉市教

育員会が作成した『千葉県佐倉市中近世城跡測量調査報告書』で重要なものの地形測量が行われ、『佐倉市史』考古編では城館集成がなされています。その他にも本佐倉城跡や白井城跡、白井田宿内砦跡、佐倉城跡などで学術調査や地形測量が行われており、把握調査が進んでいます。

## 2. 名勝地（名勝）

名勝地（名勝）は、市による把握が進み、調査も行われていますが、近代のもの更新が必要です。

本市を代表する名勝地である「旧堀田正倫庭園」では、昭和 60 年（1985）に庭園を含む諏訪尾余緑地・鏑木特別緑地保全地区の樹木調査が行われています。平成 11 年（1999）、同 12 年（2000）には庭園の園路の工法・所在などを確認する発掘調査が実施されました。その後、さくら庭園基本構想が検討される中で、庭園の工作物、樹木の調査が行われ、平成 16 年（2004）の『さくら庭園基本計画報告書』にその成果がまとめられています。平成 24 年（2012）の『近代の庭園・公園等に関する調査報告書』（文化庁文化財部記念物課）では、「旧堀田正倫別邸庭園」としてリストアップされました。

## 3. 動物、植物、地質鉱物（天然記念物）

動物、植物、地質鉱物（天然記念物）は、市による把握が進んでいます。調査が不十分または更新が必要な状況にあります。

市内各地区の天然記念物については、『根郷風土記』『弥富風土記』など各地区の公民館が市民とともに編集した刊行物によって把握が進みました。市内全般については、平成 15 年（2003）に刊行された『佐倉の自然』にまとめられています。近年では、風水害や経年劣化による被害・毀損も少なからず確認されています。

## ⑤ 文化的景観

文化的景観は、県・市による把握が進み、市による調査もある程度できています。

文化的景観の主要な要素である街道については、千葉県教育委員会の編集による『千葉県歴史の道調査報告書』において成田街道、佐倉道についての報告がなされています。佐倉市では、平成 2 年（1990）度の HOPE 計画において、新町の家屋分布調査とともに同地区の景観調査が行われました。そして、平成 29 年（2016）に策定された「佐倉市景観計画」では、佐倉城跡周辺や白井、馬渡といった旧街道筋の宿場の歴史的なまち並みについての現況の把握と特性・課題の報告がなされました。

## ⑥ 伝統的建造物群

伝統的建造物群は、県・市による把握が進み、調査もある程度できています。

市内の歴史的建造物に関する悉皆調査では、成田街道沿いの新町周辺から本町にかけて、近世以来の建造物がまとまって確認されています。また、平成 14 年（2002）の千葉県教育委員会による『集落・町並 ー千葉県集落・町並実態調査報告書ー』においても、同様の町並の遺存状況が把握され、関連資料とともに報告されています。

## ⑦ 埋蔵文化財

埋蔵文化財は、市内全域の把握が進み、ある程度調査もできています。

市内の埋蔵文化財の把握は、昭和 34 年（1959）・同 35 年（1960）の印旛・手賀沼干拓事業に先立つ千葉県教育委員会による遺跡の分布調査が最初です。当時の報告によれば、市内の遺跡数は縄文時代の貝塚 11 か所、包含地 55 か所、古墳時代円墳 48 基、前方後円墳 18 基、方墳 4 基、上円下方墳 4 基とされています。その後、昭和 50 年代に入り市独自の本格的な分布調査が行われ、昭和 59 年（1984）3 月 3 日に『千葉県佐倉市埋蔵文化財分布地図―佐倉市遺跡詳細分布調査報告書―』が刊行されました。本書は、現在もなお埋蔵文化財保護行政の基礎データとして活用されています。その後、財団法人千葉県文化財センターが昭和 60 年（1985）に『千葉県埋蔵文化財分布地図（1）―東葛飾・印旛地区―』を、平成 9 年（1997）に『千葉県埋蔵文化財分布地図（1）―東葛飾・印旛地区（改訂版）―』を刊行し、平成 8 年（1996）11 月 25 日までに判明している埋蔵文化財包蔵地（文化財保護法にいう「周知の埋蔵文化財包蔵地」）を掲載しています。また、千葉県教育委員会では、ホームページにおいて『ふさの国文化財ナビゲーション』というシステムを立ち上げ、埋蔵文化財包蔵地と指定文化財の位置及び情報を公開・提供しています。令和 4 年（2022）現在、市内の文化財包蔵地として登録されている遺跡数は 938 に上り、その時代は旧石器時代から近代までと幅広いものとなっています。このように遺跡の所在は分布調査により把握されていますが、まだ発見されていない遺跡も想定されるため、引き続き分布調査を進めて情報の更新をしていきます。

## ⑧ 文化財の保存技術

文化財の保存に必要な材料や用具の生産制作、修復の技術等に関しては、現在確認されていません。

## ⑨ その他（史話・伝承）

史話・伝承は、市による把握が進み、ある程度調査もできています。

史話・伝承は、各公民館事業での把握調査や『佐倉市史 民俗編』の編集など民俗文化財を把握するなかで、ともに取り上げられてきました。各地区の歴史的背景や特徴を説明する際にも参照され、『佐倉細見』や佐倉学副読本「ふるさと佐倉の歴史」にも取り上げられています。

## 第3節 これまでの文化財の保存・活用の取組み

### (1) これまでの保存の取組み

本市の現在の保存にかかわる取組みの概要は次の一覧表の通りです。市が所有する文化財の保存整備のほか、個人・団体が所有・管理する文化財の維持管理・修理にあたっての助言、支援とともに、佐倉市文化財保存事業補助金による助成を行っています。また、民間の財団による助成金の申請にあたっての支援なども行い、修復事業等を具体化し文化財の保存に努めています。

[これまでの保存の取組みの一覧]

No.	事業名	対象の文化財
1	<b>歴史的建造物の保存整備</b>	建造物
1-1	<b>武家屋敷保存整備</b> ・公開している武家屋敷3棟の維持管理。 ・旧河原家住宅・旧但馬家住宅の茅葺屋根の葺き替え等の修理工事の実施。	旧河原家住宅・旧但馬家住宅・ 旧武居家住宅
1-2	<b>旧堀田邸保存整備</b> ・旧堀田家住宅の維持管理や、庭園の樹木の調査・管理。 ・保存整備工事の実施。(平成9～11年) ・冠木門・笠木塀の復元整備。(平成15年)	旧堀田家住宅・旧堀田正倫庭園
1-3	<b>佐倉順天堂記念館保存整備</b> ・佐倉順天堂記念館の維持管理。 ・建物全体の修復工事の実施。(平成11～13年)	旧佐倉順天堂
1-4	<b>旧川崎銀行佐倉支店保存整備</b> ・佐倉市立美術館エントランスホールの公開。(平成6年より) ・耐震補強工事の実施。(平成28～29年度)	旧川崎銀行佐倉支店
1-5	<b>旧平井家住宅・旧今井家住宅保存整備</b> ・日常的な維持管理。 ・今後の活用を見据えた耐震損傷調査の実施。(平成31年) ・旧今井家住宅屋根修理。(令和4年)	旧平井家住宅・旧今井家住宅
1-6	<b>その他の歴史的建造物の保存整備</b> ・県・市指定、市登録の建造物の修理に対する補助・把握調査の支援。 ・近年では密蔵院薬師堂修復(令和2年～4年度)など	県・市指定、市登録有形文化財など
2	<b>美術工芸品の修復</b> ・古今佐倉真佐子の修復。 ・神輿・山車などの祭礼用具や、神社・寺院の所有する美術工芸品の修理に対する補助、把握調査・助成申請の支援など。	美術工芸品
3	<b>無形・民俗文化財の保存・伝承活動に関わる補助</b> ・佐倉囃子、武術立身流、青菅のどんどれえ、坂戸の念仏などの保存・伝承活動や用具整備の補助、把握調査・継承活動・助成申請の支援など。	無形文化財、民俗文化財

No.	事業名	対象の文化財
4	史跡・名勝・天然記念物の管理整備	記念物
4-1	公開されている史跡・名勝・天然記念物の管理整備	佐倉城跡、臼井城跡など
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・佐倉城跡、臼井城跡、旧堀田正倫庭園などの都市公園・緑地の整備。</li> <li>・井野長割遺跡、本佐倉城跡などの日常的な維持管理。</li> </ul>	
4-2	史跡・名勝・天然記念物の維持管理に関する補助	堀田正俊・正睦・正倫墓など
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・堀田正俊・正睦・正倫墓、山崎ひょうたん塚古墳、勝間田の池、長熊廃寺跡などの史跡・名勝・天然記念物の維持管理に関わる補助。</li> </ul>	
5	市内重要遺跡の調査	遺跡（史跡）、埋蔵文化財
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・市内重要遺跡の計画的な調査。</li> <li>・調査報告書の編集・刊行。</li> </ul>	
6	埋蔵文化財の保全	埋蔵文化財
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・文化財保護法に基づく埋蔵文化財の取扱い事務。</li> <li>・事業者との調整、負担軽減。</li> <li>・試掘・確認調査・本調査。</li> <li>・調査報告書の編集・刊行。</li> </ul>	
7	被災した文化財の状況把握・保存整備	建造物、美術工芸品、記念物
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・災害発生時の市内各所の文化財の状況把握。</li> <li>・被災、損傷した文化財の修復。</li> </ul>	
8	文化財のデジタル化	市内全域の文化財
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・文化財の資料撮影と写真資料デジタル化、佐倉デジタルアーカイブ掲載用のメタデータ整理など。</li> </ul>	

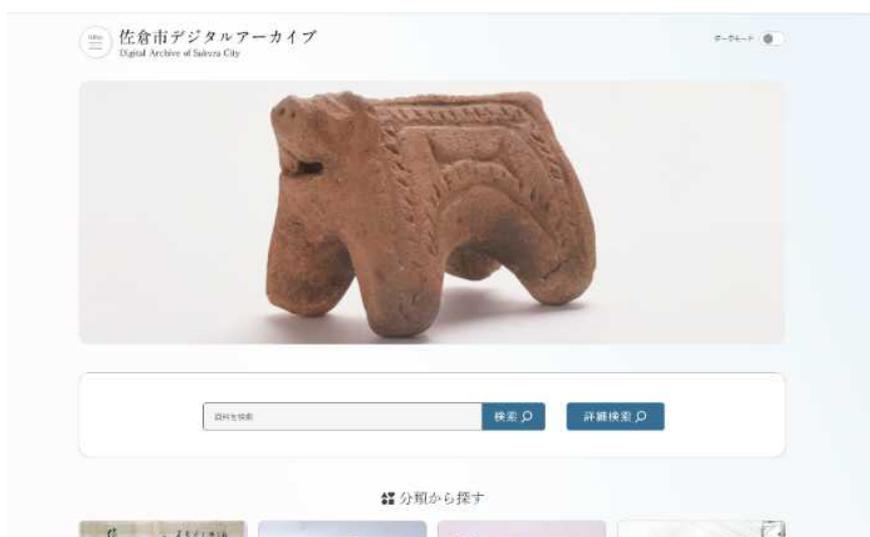
[これまでの保存の取組みの一例]



No.1-6 その他の歴史的建造物の  
保存整備  
(密蔵院薬師堂修復)



No.2 美術工芸品の修復  
(宝金剛寺所蔵牡丹唐草蓮  
華模様七条袷横被付修復)



No.8 文化財のデジタル化  
(佐倉市デジタルアーカイブ)

## (2) これまでの活用の取組み

本市の現在の活用にかかわる取組みの概要は次の一覧表の通りです。本市では、文化財の持つそのものの価値や魅力をより深く知ってもらう「追体験」と、文化財そのものの価値や魅力に別の価値や魅力を付加する「新体験」の、2つの方向性による普及啓発を行ってきたところに特徴があります。

また、市単独の取組みだけではなく、所有者・管理団体・伝承団体やNPOなど民間団体・事業者との協働・共催による事業も徐々に増えつつあります。

[これまでの活用の取組みの一覧]

No.	事業名	対象の文化財
1	<b>文化財施設の公開・利用</b>	
1-1	<b>文化財施設の公開</b>	佐倉武家屋敷、旧堀田家住宅、佐倉順天堂記念館
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・年間を通じた開館。</li> <li>・年数回の特別公開（通常入ることができない場所や見られない資料の公開）の実施。</li> </ul>	
1-2	<b>佐倉市フィルムコミッション事業</b>	佐倉武家屋敷、旧堀田家住宅、佐倉順天堂記念館
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・文化財施設におけるドラマ、映画、CM、フォトウェディング等の施設使用・撮影使用。</li> <li>・利用者との連絡調整。</li> <li>・条例での施設使用料・撮影使用料の設定。</li> </ul>	
2	<b>普及啓発・情報発信のための刊行物の編集・発行</b>	
2-1	<b>市内の文化財全般を解説した冊子（文化財リブレット）の編集・発行</b>	市内全域の文化財
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・市内の指定文化財等をテーマ別にわかりやすく解説する冊子の刊行。（平成28年度：初版、令和2年度：改訂版）</li> </ul>	
2-2	<b>ガイドマップ・パンフレットの制作・配布</b>	佐倉地区の文化財など
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・佐倉地区の街歩き用/学習用ガイドマップ、城跡紹介リーフレット、市民文化資産や市登録文化財制度の案内パンフレット等の制作・配布。</li> </ul>	
2-3	<b>各文化財、ストーリー等を紹介する冊子の編集・発行</b>	各ストーリー・テーマに関わる文化財
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・佐倉順天堂一近代医学の発祥地一展図録、佐倉・城下町400年記念総合展示図録、宝金剛寺七条袈裟・横被修復記念冊子等の編集・発行・協力</li> </ul>	
2-4	<b>佐倉学副読本の編集・発行</b>	市内全域の文化財
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・『佐倉学副読本 わたしたちの佐倉』、『佐倉学副読本 ふるさと佐倉の歴史』、『佐倉学道徳副読本 佐倉の道徳』の編集・発行。</li> </ul>	
3	<b>普及啓発のための展示</b>	
3-1	<b>市内各所の展示スペースにおける佐倉の歴史文化の展示</b>	各地域・ストーリーに関わる文化財
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・佐倉順天堂記念館、ミレニアムセンター佐倉2階、和田ふるさと館歴史民俗資料室、白井公民館白井街づくり資料展示室等での展示。</li> </ul>	
3-2	<b>佐倉市立美術館における企画展</b>	各ストーリー・テーマに関わる文化財
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・『ふたつの佐倉城展』、『佐倉・城下町400年記念総合展示』、『ぜーんぶ佐倉の縄文展』など佐倉の歴史文化を紹介する企画展の実施。</li> </ul>	

No.	事業名	対象の文化財
3-3	<b>城下町佐倉の山車人形展・写真展</b>	佐倉の祭礼文化
	・佐倉市立美術館や DIC 川村記念美術館、商業施設等で佐倉山車人形保存会による城下町佐倉の祭礼文化を紹介する展示の実施。	
4	<b>講演会・シンポジウム等の実施</b>	
4-1	<b>佐倉学講座等歴史講演会</b>	市内全域の文化財
	・佐倉の歴史文化に関する各種講演会や、各公民館における「入門講座」、「専門講座」、「体験講座」などの実施。	
4-2	<b>井野長割遺跡指定記念シンポジウム・講演会</b>	井野長割遺跡
	・井野長割遺跡指定 10 周年/15 周年を記念したシンポジウム・講演会の実施。	
4-3	<b>本佐倉城跡関連シンポジウム・講演会</b>	本佐倉城跡
	・酒々井町との共催による、本佐倉城指定 10 周年/20 周年を記念したシンポジウムや、本佐倉城跡に関する各種講演会の実施。	
4-4	<b>城下町佐倉の祭礼シンポジウム・講演会</b>	佐倉の祭礼文化
	・佐倉山車人形保存会による城下町佐倉の祭礼文化に関するシンポジウムや、他地域の事例などを紹介する講演会の実施。	
5	<b>普及啓発のためのイベントの実施</b>	
5-1	<b>甲冑試着会・サムライ散歩など武家文化の体験</b>	佐倉武家屋敷、ひよどり坂、立身流など
	・実物を模した甲冑の着用体験。 ・侍の装束をまとっての武家屋敷やひよどり坂の散策。 ・武術立身流の一部の体験。	
5-2	<b>井野長割遺跡における縄文体験</b>	井野長割遺跡、縄文時代の考古資料
	・石斧での木の伐採や火起こし体験など、縄文時代の人々の暮らしの「追体験」の開催。 ・周辺の商業施設での展示の実施。	
5-3	<b>文化財のロケーションを活かした取組み</b>	佐倉城跡、旧堀田家住宅、旧堀田正倫庭園
	・佐倉城跡でのアート&クラフトフェア「にわのわ」、旧堀田邸での音楽イベント「庭と音楽と夕暮れ」、ガーデンヨガ、禅・茶道体験などの開催。	
5-4	<b>CG・VR・スマートフォンアプリによる普及啓発</b>	佐倉城跡、佐倉武家屋敷、旧堀田家住宅など
	・佐倉城復元 CG 映像の公開。 ・佐倉武家屋敷、旧堀田家住宅内部の VR 映像の公開。 ・GPS で現地とリンクしたスマートフォン向け RPG「天倫の桜」の公開。	
5-5	<b>佐倉学を活かした取組み</b>	市内全域の文化財
	・佐倉学子供作品展や文化財施設ワークシート、佐倉学検定など佐倉学を活かした取組みの実施。	
6	<b>SNS を活用した文化財、歴史文化の情報発信</b>	市内全域の文化財
	・Facebook、Instagram などの SNS を活用した、若い世代に向けた情報発信の実施。	

[これまでの活用の取組みの一例]



No.3-1 市内各所の展示スペース  
における佐倉の歴史文化の展示  
(佐倉城下町 400 年記念総合展示  
「城と町と人と」| 佐倉市立美術館)



No.5-3 文化財のロケーションを  
活かした取組み  
(佐倉城跡でのアート&クラフトフェア  
「にわのわ」)



No.5-4 CG・VR・スマートフォン  
アプリによる普及啓発  
(スマートフォン向け RPG  
「天倫の桜」)

## 第4章 佐倉市の歴史文化の特徴

### 第1節 佐倉市の5つの歴史文化

これまでに述べてきた佐倉市の自然・地理的環境、社会環境、歴史的環境、文化財の概要と現状を踏まえたうえで、本計画では、本市において歴史的に培われてきた地域の個性、地域らしさを示す歴史文化として次の5つを挙げます。

#### 歴史文化① 豊かな自然が育んだ印旛沼文化

佐倉市の原始・古代の人々の生活は、印旛沼とそこに注ぐ鹿島川や手繰川などの河川を背景に育まれた豊かな自然と、そこに生息する動植物を対象とした狩猟・採集・漁労活動によって繁栄しました。その結果、印旛沼南岸を中心に地域の核となる大規模な集落が形成されました。また、印旛沼を利用した水上交通により、遠隔地との盛んな交流・交易があったことがうかがえます。印旛沼は、近世以降の河川改修や干拓を経て大きく変貌を遂げましたが、人々に大きな恩恵をもたらし、日々の衣食住の生活基盤であったことに加え、他地域との交流・交易において重要な役割を果たしたのです。各時代に印旛沼周辺域固有の文化が醸成され、これを「印旛沼文化」として捉えることもできます。

#### 歴史文化② 古東海道沿いに花開いた仏教文化

大宝律令の制定後、現在の佐倉市の大部分は下総国印旛郡となり、当時の政府は国を治るために都を起点とした幹線道路を整備しました。東京湾から香取海を越えて常陸国を結ぶ道路は「古東海道」と呼ばれ、佐倉市域を南北に伸びる現在の国道51号線に近いルートが想定され、沿線に仏教文化が花開いたことが多くの仏教関連の遺跡などによって知られています。加えて、古東海道は須恵器等の出荷などの地域間交流に用いられ、この道を介して当時の最先端の文化や技術が佐倉にもたらされました。当時の古東海道沿い周辺の佐倉は、都から派遣された多くの役人や技術者の活発な往来がある交通の要衝として栄えた場所であり、印旛地域の仏教信仰や政治の中心地として繁栄を迎えたのです。

#### 歴史文化③ 中世武家の興亡の舞台

中世の佐倉は千葉氏をはじめとする武家が台頭し、近世の全国的な統一政権の樹立のなかに向かっていきました。離散集合を繰り返しながら勢力を広げた武家は、自らの本拠である城館を築き、城下には市が立ち、商職人が集住し、拠点と拠点をつなぐ街道・宿場も整備されました。そのなかで、鎌倉幕府成立期の千葉氏の台頭、南北朝期の白井氏の中興、享徳の乱にともなう千葉氏の分裂と本佐倉城の築城、白井城における2度の大きな合戦、豊臣秀吉の天下統一により小田原北条氏と運命をともにした千葉氏、代わって関東を支配した徳川家康の一門・譜代の配置と転換など、佐倉は中世武家の興亡の舞台となりました。泰平の世となった後もその記憶は色濃く刻まれ、現在に至るまで語り継がれています。

## 歴史文化④ 江戸を支え、江戸と結ばれた城下町

土井利勝による佐倉城の築城以降、有力な譜代大名が城主となり老中をはじめとする幕府要職を務め、佐倉は江戸の東の要衝として政治的にも軍事的にも江戸を支えました。築城と同時に城下も整備され、佐倉道（成田街道）により江戸と結ばれました。また、幕末の佐倉は藩主堀田正睦のもと藩校成徳書院で充実した儒学・武芸や蘭学の教育が行われ、江戸から佐倉に移住した蘭方医佐藤泰然が開いた順天堂は、近代医学の発祥地の一つに数えられています。明治初期には城内の建物が取り壊されたものの、町の人々はかつて江戸で使われていた江戸型山車を購入し、引き廻しを行い、江戸で失われた祭礼文化が現在も佐倉で受け継がれています。このように、佐倉は城下町として江戸を支え、江戸と結ばれることにより発展し、現在もその趣きを感じることができる町となっています。

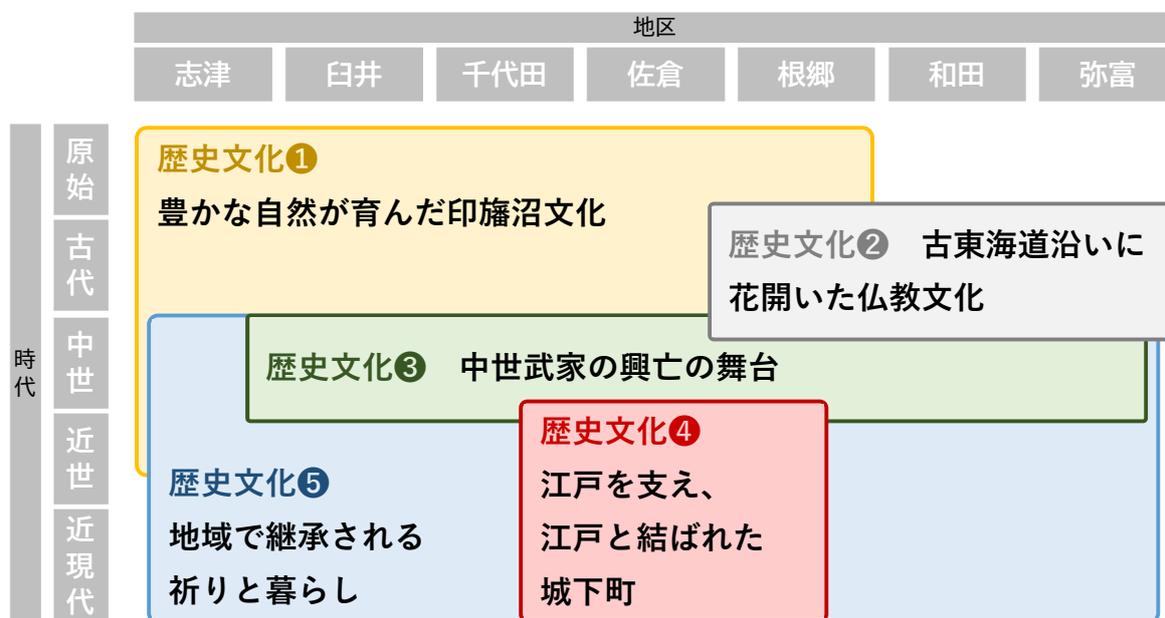
## 歴史文化⑤ 地域で継承される祈りと暮らし

佐倉市には、古くからの創建にさかのぼる寺社、篤く信仰を集めそこに伝えられてきた仏像彫刻や寄進・奉納された宝物類、現在まで継承される祭礼文化・民俗・芸能など、様々な祈りと暮らしの場とかが現在も残っています。これらは、古代・中世に遡るものや、江戸の祭礼文化を今に伝えつつも佐倉独自の要素が交じり合ったもの、宗派の別なく地域の一大行事としても受け継がれているもの、農村の伝統的な生活文化を伝えるものなど、様々な特徴を持ち、幅広い地域・時代に分布しています。これらは各地域の個性を現在に伝えるものとして尊重され、地域の人々のたゆまぬ努力により継承されています。

## 第2節 5つの歴史文化からみる佐倉の特徴

佐倉市の5つの歴史文化を地区や時代との関わりから位置付けると、下記の図の通りとなります。

[5つの歴史文化と地区・時代の関わり]



この図を見ると、佐倉の歴史文化は幅広い地区と時代に跨っていることがわかります。また、それぞれの特徴を総合して考えると、次のようにまとめることができます。

佐倉には、印旛沼がもたらす恵みによって形成された地域の核となる大規模集落が古くから存在し、中世・近世の城館とその周辺に形成された城下町や街道沿いの宿場などが発展しました。よって、人々が集住し、まちが発展していくために恵まれた立地・自然・社会環境を備えた場所であるといえます。

そして、印旛沼と鹿島川や手繰川をはじめとする河川を活かした水上交通と古東海道、佐倉道（成田街道）などの街道を活かした陸上交通が組み合わさり、交易・交流の要衝でもありました。様々な人々とモノが行き交うことで、文化的な成熟が促されていった地域であったといえます。

その結果、特徴的な信仰の表出が見られ、地域に浸透し、現在まで継承されました。縄文時代の土製品・土偶に始まり、台地上に数多く分布する古墳と副葬品、仏教文化の浸透を示す墨書土器、古代・中世に創建を遡る古社寺とそこに残る仏像彫刻・宝物類、地域で継承される祭礼文化など、幅広い時代・ジャンルにわたっています。

こうした要素が関連しあったこともあり、佐倉は周辺地域の中で政治的・軍事的に重要な位置を果たしていったといえます。佐倉には多くの中世城郭が築かれ、城主の勢力伸長とともに大規模な縄張りを誇ったものもありました。しかし、泰平の世となるとそれらは廃され、その機能が近世城郭の集大成の一つである佐倉城へと集約していった様は、武家の興亡と重なるところがあります。その城も武家政権の終焉とともに役目を終えることとなりますが、その記憶は地域社会を支える要素となり、現在につながっている点は佐倉の歴史文化の大きな特徴の一つであるといえます。